

日中友好のしんぶん

大阪と中国

●編集・発行

特定非営利活動法人

大阪府日本中国友好協会

〒543- 大阪市天王寺区大道5-4-6

0052 大阪スカウト会館2F

TEL06(6770)0080 FAX06(6770)0707

●発行日 2012年9月1日 No.227

●定価 200円

宛先：大阪府日中(jcf@mail.infomart.or.jp)

<http://www.kaigisho.com/jcf>

題字は王个移氏

日中国交正常化40周年 特集号



総会後のレセプション会場
于淑媛副総領事の
あいさつを聴く



大阪・上海 少年サッカー交流

第十三次中日友好交流



主办单位：中国日本友好协会 贵州省人
民友好协会
承办单位：贵州省人
民友好协会
2012年 中国・贵阳

日中友好交流会議で次回
2014年に大阪での再会を
表明する小田副理事長



国交正常化40周年記念 西日本地区中国人留学生記念イベント

- 主な内容 ●
- ◇ 特集 「日中国交正常化40周年に思う」寄稿
 - ◇ 地区協会NEWS
 - ◇ 友好交流レポート 日中友好交流会議、少年サッカー交流 他
 - ◇ 会員消息

日中国交正常化40周年に思う

国交正常化40周年を迎え 新たな決意と行動を

会 長
谷 井 昭 雄



日中国交正常化40周年を迎え、その間日中関係は発展と共に大きく変化しました。将来に亘る日中友好と互惠発展のために、現在当面している課題、そして将来に向けてどうあるべきかを、真剣に腹藏なく話し合い、共通の認識をもつ努力をする年であると思えます。

私が初めて中国を訪問したのは松下電器（現パナソニック）のビデオ部門の責任者として、北京飯店で開催された「ビデオ技術交流会」の出席でした。

その前年、中国の鄧小平主席（当時副首相）が日中友好条約の締結で来日され、帰路松下のテレビ工場を見学された。松下幸之助創業者は、「二十一世紀はアジアの時代であり、それを進めるためには日本と中国は力を合わせて努力しないとイケない。これからの中国の発展のため松下は積極的に協力しましょう」と約束され、翌年から二度に亘って北京を訪問、鄧小平主席と親しく懇談されました。

私達のビデオ交流会では、松下側の技術者達の説

明に中国の若い技術者は、目を輝かしながら熱心に聞き入り、記録をとる姿が印象的でありました。

その後1989年に北京市郊外に当時としては最大の日中合弁会社が誕生し、双方初めての事業であったが多くの困難を克服し、順調に発展しました。その成功の要因は唯一つ、日中関係者の「相互信頼」「相互尊重」に盡きます。

これからの日本の発展は、アジアの発展、特に中国の発展に連動して行かなければなりません。日中互惠発展のための良い関係づくりが大切です。お互いの主権を尊重し、ちがいを認め合いながら共通の輪を拓けて行く努力が双方に必要であります。

平和回復後の日中関係は、民間交流から開かれた歴史を見ても、40周年を迎えた今日、あらためてより深く、より広い日中の、人と人との交流、特に次代を担う若い人達の交流も大切なことであります。

今日、日中友好協会の役割は一層重要であるとの認識の下、先輩達が築いて来られた長い日中友好の活動に学び、会員皆様と共に意義ある活動を積極的にすすめて参りたいと思えます。

日本篆刻家協会

理事長 尾崎 蒼石
事務所 大阪府池田市石橋二丁目二〇三
電話 (〇七二) 七六〇一三八五二

大阪市労働組合連合会

執行委員長 中村 義男
〒541-0048 大阪府中央区瓦町二丁目四番七号
新瓦町ビル七階
TEL (〇六) 四七〇六一三三三三番

公明党

大阪府本部
www.komei-osaka.jp

〒550-0013
大阪市西区新町4-10-4

☎ 06-6532-7071
☎ 06-6532-7055

一般社団法人 日中経済貿易センター

名誉会長 谷井 昭雄
代表理事 村山 敦
代表理事 青木 俊一郎
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町四丁目三
大阪センタービル2F TEL 06-4704-1251

大阪華僑総会

会長 曾昇 龍
理監事 一同
〒541-0056 大阪市西区靱本町三丁目九番十八号
電話 (〇六) 六四四八一〇五四一

祝 日中国交正常化40周年

日中国交正常化 40周年に寄せて



副会長・理事長・堺日中友好協会名誉会長
林 昭 嘉

国交正常化40周年の記念すべき年を迎えて、今日本では世界的な経済環境不振の中で改めて中国との経済交流が如何に重要であるかを痛感している。

私達が中国建国から62年間、あらゆる分野で進めてきた友好交流は何であったのか。最近とみに一部の領土の問題でショッキングな事態や中国各地で反日行動が起こっていることは、国民感情として理解し難いものがある。

私達は、政治、外交の問題はさておき、相互の経済発展により国を豊かにし国民の暮らしを向上させることが目的である。従って40周年を機に経済面での取組みをより積極的に進めたいと願っている。しかし中国経済は2000～12年にはGDPが実質8.7%の平均成長率だったのが、2012年以降は7%台への再減速が予測されている。当然中国との輸出入が減少し、中国への進出企業にとっても重要な節目にあると考えられる。

私は、長年の日中交流の土台に立って、日中間の経済は安定かつ相互依存の強い関係のもとに世界をリードする経済圏同士であると信じている。

両国の経済交流発展を祈ってやみません。

日中文化・都市・経済交流に これからも全力を




副会長・池田市日中友好協会名誉会長
藤 尾 昭

日中国交正常化40周年を心からお祝いいたします。振り返れば、私たちの先輩たちは、1949年の中華人民共和国建国の早くも1年後に日中友好協会を立ち上げ、日中国交正常化に向けての、長年にわたって粘り強い組織的な活動を展開しました。当時の国内政治状況、国際情勢による内外からのさまざまな圧力がありましたが、協会は全国的組織の強みを生かして民間としての立場から文化・友好交流、経済交流などの実績を積み重ねて日中往来のルートを維持し、また広く世論に訴えかけて、1972年の国交正常化への流れをつくりました。その間の苦難を物語る事件、エピソードは枚挙にいとまがありません。

大阪においても、東京と同時に発足したものの、占領軍によって役員、事務局員が投獄されるという試練に見舞われましたが、先輩たちの信念と行動によって今日の礎を築かれました。華僑の方々のご支援、ご協力も忘れることができません。

こうして迎えた国交正常化40周年です。それよりずっと前から「民を以って官を促す」活動を進めてきた先人のご苦勞と功績に改めて敬意を表するとともに、日中友好のさらなる発展に向けて努力していきたいと思っています。

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| <p style="text-align: center;">大阪卓球協会</p> <p style="text-align: center;">会長 江崎勝久</p> | <p style="text-align: center;">NPO法人 大阪太極拳協会</p> <p style="text-align: center;">会長 高田雅明 理事長 川崎雅雄</p> <p style="text-align: center;">〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島三ー一四ー二四 大阪武術太極拳トレーニングセンター 電話 (〇六) 六四七八ー三〇〇三</p> | <p style="text-align: center;">祝 日中国交正常化40周年</p> <p style="text-align: center;">特定非営利活動法人 日本太極柔力球連盟</p> <p style="text-align: center;">10月14日(日)堺市家原大池体育館にて 第四回「八卦杯」 太極柔力球日本選手権大会開催</p> <p style="text-align: center;">http://www.fjr1q.jp</p> <p style="text-align: center;">Tel 072-236-8305</p> | <p style="text-align: center;">大阪府バドミントン協会</p> <p style="text-align: center;">会長 三宅祐司</p> | <p style="text-align: center;"> 社団法人 大阪府鍼灸師会</p> <p style="text-align: center;">〒530-0037 大阪府北区松ヶ枝町六ー一六 電話 (〇六) 六三五一ー四八〇三</p> |
|---|--|---|--|---|

温故知新で新しい 日中友好関係を築こう

副会長
一般社団法人日中経済貿易センター代表理事

青木俊一郎



1945年から1972年まで日本にとっての中国は台湾の中華民国であった。1949年10月1日北京の天安門上で毛沢東主席により世界に向けて高らかに中華人民共和国の設立が宣言されたが、その後27年間は両国の有志の先人たちにより日中国交正常化への数々の尽力が粘り強く積み上げられた。

まず1950年民間団体として民間交流を促進する日中友好協会が設立された。1954年大阪府高槻市出身の高橋達之助氏(当時の通産大臣)を初めとする関係者の提案で経済貿易促進を目的とする国際貿易促進協会(当センターもメンバーの一員)が設立された。

1955年の第3勢力と称される第二次世界大戦後独立した新興国のリーダー達が集まり平和五原則を決議した第一回バンドン会議で高橋達之助と周恩来総理が会談し、国交正常化にはまず日本側の民間レベルでの経済貿易の振興からスタートすることを確認した。

後日、周恩来総理は自分が日本人として最も高い評価をするのは高橋達之助をおいてないと語ったと伝えられている。1962年にはようやく高橋達之助氏の「T」と日中友好協会廖承志会長の「L」を採って命名されたLT貿易が開始され、日本から化学繊維プラントが輸出された。

1971年に入るとアメリカのニクソン大統領が日本

への通告無しに頭越し外交で訪中し米中共同コミュニケが発表された。日本の政界も台湾との「日華条約」を重視する保守派が抵抗する中で、経済界はいち早く当センターが中心となって、大阪商工会議所、関西経済連合会、関西同友会等を結集し佐伯会長を団長として訪中を敢行した。

1972年自民党の総裁も佐藤栄作氏より田中角栄氏に変わり、田中総理の最大の政治課題として日中国交正常化交渉が行なわれ、9月29日に人民大会堂で田中角栄総理と周恩来総理が「日中共同声明」に署名した。この感激的な情景を中国の中央電子台がNECを初めとする日本側放送関連技術者と共に協力提携し中国で初めてライブでカラー電波を世界に伝えた。

日中共同声明には双方が相容れぬ問題が残されたが「小異を捨て大同に就く」ことで一致した。最も重要な合意事項は「台湾は中華人民共和国の切り離すことのできない領土であることと、中国は戦時賠償を放棄する」ということである。

周恩来総理は「中国を侵略し多大なる損害を与えたのは日本軍であるが、日本軍の兵士も軍国主義の被害者であり、その責任は日本の軍閥である。

中国国民は日清戦争の賠償のために塗炭の苦しみを負ったが、この同じような苦しみを日本人に負わせてはならない」と述べ、毛沢東主席と事前に相談し戦時賠償放棄に踏み切ってくれた。

交渉の責任者であった大平正芳外務大臣はこの言葉を深く受けとめ、7年後に自ら総理になった折に、中国は改革開放政策を開始した時期であったが、多

烟台汉都金属制造有限公司(山東省)

株式会社 **ダイドールハント**

代表取締役 **肌 勢 勝 彦**

大阪市中央区西心斎橋一丁目五
番11号
A11 BLD心斎橋11F
TEL (06) 6271-3475

家具・インテリア雑貨
モビリグランド

代表取締役 **藤 尾 光**

・池田市満寿美町
・西宮阪急三階中央
http://www.mitsumi-co.com

レンゴー株式会社

代表取締役社長 **大 坪 清**

〒530-0005 大阪市北区中之島二丁目七
中之島セントラルタワー
TEL (06) 6231-2377
FAX (06) 4706-1990

物流のことなら

丸山物流株式会社

取締役会長 **小田 眞弘**
取締役社長 **中尾 武司**
〒552-0007 大阪市港区弁天6丁目2番8号
Tel 06(6576)6020(代)

パナソニック株式会社

〒571-8501 大阪府門真市大字門真一〇〇六
電話 〇六六九〇八・二二二

額の対中 ODA（開発途上国援助）提供を行うことを決意し、中国の近代化に協力するべく、永年にわたり継続してきた。

このことに対しても2008年胡錦濤主席が訪日の折、公式に謝意を表している。

国交正常化40周年を迎えて、慶賀すべきは両国が変転する国際情勢のなかで様々な政治上、経済上の問題を争うことなく官民一体となり発展し、世界第二、第三の経済大国としてアジアの時代を迎えていることである。

今後の課題はより良き隣国として友好関係を発展させていくために両国政府が次々に起こってくる政治経済上の問題を戦略的互惠関係に基づき、主権を見失うことなく適切に処理されることが要請される。

一方我々民間の草の根レベルでは「世代々に亘る友好」関係を築き上げるために各方面に亘る努力を積み上げていく必要があると思う。

そのために我々友好協会の果たすべき役割は益々重にして大になっている。

次なる50周年を迎えるために、日中双方の知恵と信頼関係をより緊密に結べつけ、新しい時代に適応する日中友好活動が作りあげられていくことを祈念するものである。

日中国交正常化 40周年記念を回顧して



副会長
田中 潤治

内閣総理大臣田中角栄は中華人民共和国国務院総理周恩来の招きを受け、大平正芳外務大臣および政府要人を随行させて中華人民共和国を訪問、毛沢東主席と会見、友好的な雰囲気の中で真剣かつ素直に意見交換を行い、1972年9月29日、両政府の共同声明を発表することに合意いたしました。永い伝統的友好の歴史を有する両国民の間に存在していた不正常な状態に終止符を打つことにより、日中国交の正常化という両国民の願望の実現となり、両国の歴史に新たな一頁を開くことになると宣言しました。1978年8月12日正式文書を作成、日中平和友好条約に外務大臣園田直人と中華人民共和国外交部長黄華両氏が国を代表して正式に平和友好条約の協定書を作成し、この条約に署名押印され、中日国交正常化が実現して本年は40周年の記念すべき年を迎えています。

今や日中双方はアジア太平洋地域の平和安定と発展に大きな影響力を持つ責任ある国家と成りました。1972年頃の貿易総額は11億ドル、現在日本から中国への輸出貿易額12兆9,022億円、輸入額は14兆6,419億円となり、日本の企業進出は2万5千社、今や中日両国は最大の貿易相手国でもあります。また、中国のGDPは世界第2位となり、世界中が中国に依存しなければならない状況となってまいりました。

株式会社 日中語学センター

中国語を学ぶ大阪中国語学院
日本語を学ぶ日中語学専門学院を運営しています。
「南森町駅」すぐ

学院長 青木俊一郎
代表取締役 大藪 二郎

TEL: 06-6353-0671 URL: <http://www.jdc.jp/>

学校法人 天満学園

太成学院大学
太成学院大学高等学校
太成学院大学中学校
太成学院天満幼稚園
太成学院大学歯科衛生専門学校

理事長 足立 裕 亮

〒587-8555 大阪府堺市美原区平尾一〇六〇番一
電話 (〇七二) 三六三三-一六三七三

<http://www.tgu.ac.jp>

日根野公認会計士事務所

公認会計士
税理士 日根野 文 三

〒540-0024 大阪市中央区南新町二丁目三十一番七
TEL (〇六) 六九四二-一八八八
FAX (〇六) 六九四二-三二七七

祝 日中国交正常化40周年

大阪府日中友好協会常任理事
ジャパンパーツサービス株式会社

代表取締役会長 石 田 修

西日本貿易株式会社

本社 〒541-0045 大阪市中央区道修町四丁目四一〇
KDX 小林道修ビル八階
電話 (〇六) 六二〇三-一五七三(代)

た。この国交正常化40周年の機会を捉えて過去を反省し、二度と悲劇を繰り返すことの無いよう、あの時代の不幸な日中関係を正しく後世に伝えて行くことこそが未来の日中関係を良好に保つ重要な鍵となると思います。

1929年前後から世界は大恐慌となり、貧困に苦しむ人達が増え、先進欧米諸国はアジアへの覇権を始め、自国の経済破綻を救うべくアジアの多くの国々を植民地化し、自国の利益確保を進めてまいりました。日本でも同じ様に世界の不景気のもと、工業生産額や輸出が急激に落ち込み失業者が増え続け景気は最低となり、政府は赤字公債を発効、軍事費や公共事業を増やし続け、軍事力の強化に伴い欧米諸国にNOと言えるような積極財政政策を進めました。欧米諸国は日本を警戒、敵視するようになり日本叩きを始め、日本に対する欧米諸国の経済制裁が厳しくなりました。1928年、日本軍は山東省に出兵して済南事件を引き起し、関東軍は瀋陽で東北地方の支配者張作霖を爆死させ、1931年満州事変を起こし、中国の東北三省を占領する軍事的侵略行為を行いました。国民党南京政府は主とする戦力を中国共産党に向けて内戦状態を続けていましたが、中国共産党は各党各派に呼びかけて日本帝国主義と戦うことを呼びかけ、中国各階層の人民は日本に対する全民族的抗日戦争を促がし、ついに蒋介石も対外的発言を行い、対日抗戦を宣言しました。「ひとたび戦端がひらかば、土地に南北の別なく、人に老若の別なく、何人も皆国土を守るために抗戦する責務がある」と述べ全国民から歓迎された。この様な日中関係の背景には、米国のアジア外交政策によって日中

が左右されていたことを忘れてはならない。アメリカはロシアを日本より好まず、ロシアの満州からの勢力を駆逐するための手段を模索、常に日米中のトライアングルの構図をつくり日中両国を天秤にかけ、より多く利益をもたらすかを考えて行動し、最終的には中国との日本挟撃政策となり、太平洋戦争に発展して行く現因となりました。現在でも米国のアジア政策の深層には日中との三角関係政策による外交交渉が続いていることを両国民は気がついていないのではないのでしょうか。

私は太平洋戦争の末期には16歳となっていました。学徒動員され毎日の重労働と飛来する米国のグラマン戦闘機と空爆に苦しみ、死をも覚悟をする状況でした。此のアメリカの空爆により、日本の主要な都市は破壊され死の街となっていました。敗戦の5ヶ月前、神戸の兵庫区に有りました食糧倉庫が爆撃され貴重な食料が大量に水に漬かり、腐敗寸前の米の整理に動員され約一ヶ月間、捕虜となった中国軍人と共同作業をすることになり、初めて中国人との出会いがありました。戦争のもたらす人類への影響が如何に悲惨なものか、身をもって体験することが出来ました。腐敗寸前の米を炊き出し握り飯にして我々に配給されますが、如何に食料が乏しくとも食べる気になれないほど拙い握り飯を、中国人は欲しいとせがみ、官憲に見つからないよう人目を避けて手渡し、無我夢中で食する姿に胸を打たれたのを今も忘れることが出来ません。勝者と敗者との厳しい現実を知るにつれ負けるものではない、勝たねばならぬと決意したのも束の間、数ヶ月後、全てが逆転、日本は戦争に負け、共に汗して働いた中国軍人

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| <p>中国国家観光局大阪駐在事務所 〒556-0017 大阪市浪速区湊町1-4-11 OCATビル4F 電話 〇六六六三三五一三二八〇 FAX 〇六一六六三三五一三二八一 サイトがリニューアルしました。 ↓ http://www.cnta-osaka.jp</p> | <p>中国料理 錦城閣 会長 潘士義</p> | <p>藤田観光株式会社 太閤園 〒534-0026 大阪市都島区網島町九-1-1 電話 (〇六) 六三五六-1111 URL http://www.taike-en.com</p> | <p>ホテルニューオータニ大阪 総支配人 崎山喜代志 大阪市中央区城見1-4-11 TEL 〇六一六九四二-1111(代)</p> | <p>株式会社 ロイヤルホテル 代表取締役社長 川崎亨 〒530-0005 大阪市北区中之島五丁目三-16-8 電話 (〇六) 六四四八-1111</p> |
|---|---|---|---|---|

は勝者としてアメリカの軍艦に収容され、中国に引き揚げて行きました。日本は占領下に置かれ、日本の軍人は敗者として中国からシベリアに強制連行され、50万人を超える日本人が強制労働を強いられ、5万人がシベリアで死亡しました。戦争で死亡した日本人犠牲者総数は300万人を超え、両国の多くの犠牲者に対しての愚かな戦争を二度と繰り返すことのないことを誓い、冥福を祈るばかりです。戦後、蒋介石は日本の軍隊に対して（恨みに報いるに徳をもってせよ）と訓話を行い、少数の日本軍将校が共鳴、共産党に反対する勢力に迎合し内戦に巻き込まれたと聞きましたが、280万人の日本人が無事に中国から引き上げることが出来ました。共産党の軍隊は捕虜の私有物には触れない規律に従い手を触れる事無く、中日戦争で積もり積もった憎しみをこらえて帰還する日本人に冷静な態度で対応し日本人側を感動させました。

中国側の戦争による被害は甚大であったにもかかわらず 日中平和友好条約の共同声明文の中で周恩来首相が中華人民共和国政府は、中日友好のために、日本国に対する戦争賠償の請求を放棄することを宣言しました。それからの40年間に日中両国民の間には善隣友好の関係が深まってまいりましたが、友情は友情、歴史は歴史であるとの中国人側の考え方を十分認識して、今後ますます不安定化に向う国際情勢の中、相互に協力し合える民間交流環境を作り、世界人類の平和のために、日中友好協会の活動により積極的に参加したいと考えています。

「以民促官」が今こそ大事



副会長
戸毛 敏美

日中国交正常化40年を迎え、感慨無量です。まずこれは日中両国人民が闘い取った成果であるということです。

政府がアメリカ一辺倒の時代でも、日本の経済界、ことに関西財界の目は中国に釘づけでした。そして60年には全日本の民主勢力がこぞって立ち上り、日米安保条約反対運動を巻き起こし、日中友好貿易の道を切り開きました。

中国人民も「民を以って官を促そう」と、色々手を打ち日中国交正常化へと繋げていく中で、私なりに些かの貢献ができたことを大変誇らしく思います。

国交正常化で一番嬉しく思ったことは、私達のサポートから中華人民共和国渡航禁止の文言が消えたことです。

そして中国の改革開放時代を迎え、経済グローバル化の波に乗って日本の経済界が中国へ大挙進出し、また最近では多くの中国企業も日本に進出し、密接な切っても切り離せないような関係が出来上がっています。これは素晴らしいことです。

1928年の世界大恐慌が、日本の中国侵略の誘因だったことを思えば、2008年のリーマンショックがありました。中国も昔の中国ではありませんし、日本も違いますから戦争について心配される方は少ないと思います。

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
|  <p>出会いと感動の旅〜おかげさまで48年</p> <p>日中平和観光(株) 大阪支店</p> <p>担当 川元 貴之</p> <p>〒541-0046 大阪市中央区平野町三丁目四番一四号 大阪TKビル TEL 06-6162-0102</p> |  <p>「祝・日中国交正常化四十周年」</p> <p>株式会社五大大陸 代表 神田淳史</p> <p>大阪市中央区南船場三一九一十 TEL 06-6228-2100</p> |  <p>中国の旅・世界の旅</p> <p>鉄二十世紀旅行</p> <p>〒101-0054 東京都千代田区神田錦町一―四 日中友好会館3F 電話 03(5218)2460(代)</p> | <p>中国ならANA</p> <p>関西国際空港から 6都市へネットワーク</p> <p>●就航都市 北京・上海・大連・青島 杭州・香港</p> <p>ANA</p> <p>ご予約お問い合わせは国際線 センター 0570-029-333 (全国一律料金)</p> | <p>全国麻雀業組合総連合会 大阪麻雀連合会</p> <p>理事長 木下裕章</p> <p>〒550-0002 大阪市西区江戸堀一―四―二七 ニッポウ江戸堀ビル三階 電話 06-6161-0157 FAX 06-6161-0157</p> |
|---|--|--|--|---|

でも真の意味での草の根の、本音で語り合う交流はまだまだと感じています。

若い方達も参加しやすい日中友好活動スタイルの一新、観光旅行も物見遊山、ショッピングだけでなく、日中双方が互いに一般庶民と触れ合い交流する機会を多く持つ観光コースづくりとか、色々工夫が必要ではないでしょうか。一首長の言動が予定した青少年交流を中断するなどは、もってのほかです。逆に民間交流を深め不穏当な言動を封じる「以民促官」が今こそ大事ではと実感しています。

次回日中友好交流会後を 大阪で

副理事長

小田 眞弘



去る5月24日、25日の両日、第13回日中友好交流会議が、中日友好協会と中国人民対外友好協会の主催で貴州省貴陽市で開催された。本年は日中国交正常化40周年の節目の年であり、また3月に会長に就任された唐家璇先生が4月に来阪されたこともあり、再会を期待して参加した。

交流会議は誠に盛会で主催者の力の入れようを感じる歓迎ムードの中で行われた。会議には唐家璇会長、井頓泉、王秀雲両副会長をはじめ17名の協会幹部と、中国各地の友好協会関係者、総勢74名の参加者があった。日本からは、加藤紘一会長を筆頭に日本各地より143名の出席があった。関西ブロックからは滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、大阪府の各協会より21名が参加した。

当友好交流会議は1983年に北京市で第1回が開かれ、原則は隔年に日本と中国が交互に開催することになっている。日本では過去に東京、滋賀県守山市、長野市、高松市で開かれている。第14回は2014年に日本の当番となり、大阪で開催されることとなっている。皆様の協力を頂いて是非成功させたいと思っている。

国交正常化40周年に当たりながら、本年は日本と中国の間に色々の困難があり、必ずしもスムーズな関係と這い得ない状況にある。これは今日までの40年の日中関係と、これから先の日中の関係が同じなのか。世界の変化に伴って友好活動も変わる工夫が

必要と思っている。

具体的には従来にも増して青少年交流を活発にし、また青少年の日中友好活動への参加を求めて行くこと。同時に、中国の各機関や華僑団体、或いは中国留学生等と、今迄以上に共同で事業を行うことが必要と考えている。

いずれにしても40年の長い年月で育んだ日本と中国の友好を新しい時代に合った形で深めて行くことを祈念する一人である。

日中国交正常化で登場した中国の 大慶原油の影響は大きかった

相談役・日中経済貿易センター元理事長

吉澤 宏始



1972年9月末の国交正常化の翌月、周恩来総理は中国の石油を日本に供給すると伝えた。12月にその見本が神戸港に到着し、その半年後、73年5月に姫路の出光興産兵庫製油所に最初のタンカーが相当量の大慶原油を運んできた。

この中国の石油はそれから30年間、すなわち20世紀の末まで、途絶えることなく日本に運ばれてきた。国交回復記念で中国はパンダを国民間の友誼のシンボルとして貸与した。これは日本国民に周知されているが、石油が数本のドラム缶でパンダより2カ月遅れで神戸に来たことは殆ど知られていない。大慶原油は黒龍江省ハルピンの西北で採掘され、パイプラインで大連に送られ石油専用埠頭から日本から配船されたタンカーに積み込まれる。硫黄分が少なく、大気汚染の少ない長所と常温では固形化するので摂氏数十度に加熱しておく必要がある難点があった。これはパラフィン分が多いからである。輸入量は73年は100万トン程度であったか、すぐに1千万トン近くまでになった。当時の日本の原油輸入総量は年間2億トン程度でこの5%を中国が供給したのである。

日中国交未回復の約20年間は日本経済にとって戦略物資的な資源は日中貿易ではなかった故、72年10月に周総理が「石油の対日供給の開始は毛主席も許可しているから、関西の皆さんが受入れの仕事を始めてください」と日本国貿促関西本部の木村専務理事が承った瞬間、木村さんは「国交回復の重み」を実感したと私に語ってくれたことは今も記憶に新し

い。私も73年1月4日の税関の「仕事始め」の朝一番に受荷主として国貿促関西の輸入申告をしに六甲の神戸税関の分室に行った時、窓口の税関吏が「中国が石油を日本に出してくれるのですね。まことに目出たいことです。おめでとうございます」と言ってもらった時も「国交回復の重み」を実感した。この頃、警察の外国人警護担当の刑事や入国管理局の中国担当など国家公務員の人々からもこの種の「世の中の変化」を感じ取ったことは多かった。

中国原油は出光興産、丸善石油等々の民族系精製会社が関西財界の代表的な会社とともに荷受け会社の国際石油を設立した。次いで東京で外資系精製会社の日本石油、三菱石油等々が「輸入協議会」という組織を作り、中国原油の扱いを始めた。

原油は各種の石油製品となって流通するので、需要家を特定することは困難であるが、原油生焚きとして火力発電の燃料として最後まで使用した会社は関西電力で年間100万トン以上を使用したとのことである。

日本の経済界は中国石油の輸入で色々な利益を得たが、中国側も同様であった。73年から石油の国際市場は一変した。産油国の力が強くなり、72年頃1バレル約2ドルという安値から上昇の一途を辿り、あっという間に10ドルを突破、世紀末には100ドルを突破した。国際価格で取引される中国石油は予期しない値上がりの利益を充分に受け取ることができた。計画経済原理の当時の中国の輸出入貿易は、日本への輸出で得る外貨収入で日本からの輸入を決める原理が作用していたので、日中貿易の輸出の急速な増加という形で経済界には国交回復のメリットは配当されたのである。

私の入会のころ

副理事長・(公社)日中友好協会常務理事

大藪 二郎



日中国交正常化40周年を迎えて、改めて、わたしが日中友好協会にかかわりだした頃の事を思い出した。

50年前ごろのある日、淀川の赤茶けた鉄橋を渡る電車の中で、偶然に高校の同級生に会った。こちらは

浪人中、「君は今どうしているの？」と尋ねると、「大阪外国語大学で中国語を学んでいる」という返事。その時初めて中国語を学ぶ大学があることを知った。

入ってみると、中国語は、「BO PO MO FO」という日本語のアイウエオにあたるものと、四声（例えば：MAの発声に4つの声調がありそれぞれ意味が異なる）が基本で、その四声がなかなか区別できない。担任の伊地智善継先生（のち学長）は、ネを上げられ、「君は来るところをまちがえた」と言い放たれた。自分でもそう思ったが、他にどうしようもなく、ずるずると居座った。

中国から来られた金毓本先生にいたっては、わたしには1年から4年まで、「NI（你）ZHUZAI（住在）NAR（哪ル）？」（君はどこに住んでいますか）という一文を繰り返すのみであった。それでもそれも上手くいかないの、先生の官舎に出かけ窓拭きに精を出し、夫人のご機嫌をとった。そんなことでやっと卒業が認められたと、いまだに思っている。結局、4年間で四声を学んだだけ。

64年4月8日大阪外大に入学するなり、学内の狭い芝生の庭で例の同級生（当時支部長）が「はい、日中友好協会の会員に入って」と、入会手続きをした。さしずめ、会員増強のターゲットとなったところ。それで、いまだに入会の日を覚えている。

それから、同じく会員になったN君と一緒に、日中友好協会大阪府連合会（当時）が開設していた「日中友好講座」に真面目に通い、二人とも皆勤賞の中国製の万年筆「英雄」を貰い喜んだ。そのN君いま病を患い、山の中に引っ込んでしまった。

その「友好講座」は、今思うと講師陣が豪華であった。

金子二郎：大阪外大教授、のち学長、当協会会長

木村一三：日本国際貿易関西本部理事長、その後
日中経済貿易センター会長

大塚有章：当協会理事長のち会長

兩宮礼三：当協会事務局長、のち副会長・理事長

中村九一郎：大阪経済大学教授

儀我壮一郎：大阪市立大学教授

杉野明夫：大阪市立大学教授 などなど

当時の日中友好協会は、日本共産党と一緒に活動をしていた。いずれも、日中友好に身体を張った講師の講義は、わたしにとって大いに刺激になった。大学の勉強より、こちらのほうに力が入ったように思う。人海戦術の中国について、アメリカの「中国

封じ込め政策」等を学んだ。なぜ、日本政府は、中国の首都は北京であることを認めないのか？ NHKは中国といわず、「中共」というのか。

そのころ、フランスが中国を承認し、次は「日中国交回復」だと三千万署名活動が全国的に展開され、日中友好運動は盛りあがった。しかし、それでも状況が変わることはなかった。そのうち中国は文化大革命の時代に突入した。

友好都市中学生卓球大会への参加を実現

八尾市日中友好協会会長

田中 順治



本年は、日中国交正常化40周年という記念すべき年にあたり、日本、中国両国友好協会は、国民友好交流年と位置付けてこの一年、数々の行事を計画されています。

7月には千葉県幕張メッセで「世界最大 恐竜大国2012」が開催され、また8月には、5年に一度の大規模な青少年スポーツ交流事業として、「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」が北京のオリンピックセンター総合体育館で開催されることを、日中友好の新聞「日本と中国」に「今年の夏は熱くなる」と報じられていました。

特に、中学生卓球交歓大会は、全国で80~90都市が参加されるようですが、友好都市がお互いに参加するとの意思表示がなければ実現は難しいようです。

本市の場合は、友好都市である上海市嘉定区から2月に問い合わせがあり、両市区間で参加の方向にむかって取り組む中、費用等の捻出に苦労しましたが、市当局の英断と会員各位のご配慮による結果、当協会より団長を派遣したチーム編成ができ、今は出発までのスケジュールを消化するのに多忙を極めていきます。

2名の男女の選手も中学2年生ですが、素晴らしい体育館「北京オリンピック会場」で大好きな卓球が思いきり出来ると闘志を沸き立てるように、八尾市日本中国友好協会も「今年の夏は熱くなる」。

国交正常化40周年に思う

池田市日中友好協会会長

倉田 薫



「このまま一人っ子政策が続くと中国は日本以上の少子化問題を抱えることになりますよ」もう10年も前になるだろうか、池田市長として中国蘇州市を訪問した際にそう申し上げたことを記憶している。その中国では少々緩和されたとは聞くが今なお一人っ子政策が続いているようだ。

「水の都蘇州市の水が濁っている、日本の下水道の技術をもってすれば水の浄化は可能かも」そうも申し上げたことがあった。すぐに蘇州市の市長が池田市にやって来て「両市の水環境協定」を締結し、池田市の下水道職員を1カ月間研修という名目で派遣したことがある。これは当該職員に後で大変お叱りを受けた「あの蘇州の水の浄化を私たちに、と言っても到底無理なことですよ」と。でも当時の蘇州市長は大変喜んでくれた。

この40年、日本は中国に何を求めてきたのか。この40年、中国は日本に何を求めてきたのだろうか。ただ単に安い労働力のみを求めて進出した日本企業は今や中国からさらに安い賃金の国へと移動を始めているという。中国はというと日本の技術、経済ノウハウさえ手に入ればよかったのだろうか。

前述の少子高齢社会や環境政策、そしてバブル経済崩壊への対応などはまさに日本が良いお手本ではないか。年間、何千万人も中国人が日本を訪れる時代になってくるというのに、日本と中国との付き合いはというと「ほんの一握りの人達」のみのお付き合い、交流にとどまっただけではないのだろうか。

国交正常化40周年を一つの節として、日本政府としては中国と日本の交流のあり方、アジアにおける、いや世界における中国と日本の役割について今こそ胸襟を開いて話し合う時期に来ているのではなからうか。

そして、民間外交、交流という面ではこの大阪、関西から新しいスタートを切ろうではないか。空の港に海の港、文化交流に距離の利便性、すべて整っている。関西空港と大阪空港の経営統合も行われた今がチャンス、さあ出帆しよう、心の錨を上げて……。

麻雀を通して進めた 日中友好

顧問・大阪麻雀連合会理事長

木下 裕章



40年前、日本の田中角栄総理と中国の周恩来首相が握手した日のことをはっきり覚えている。

この年、私の四国の友人から、麻雀店をオープンするのに屋号をいろいろ考えたが「周角荘」に決めたと電話をもらった。今も松山市で頑張っておられ、この店に行くたびに国交正常化の日のことを思い出します。

40年を振り返って特に思い出深いのは、12年前に日本の大学対抗麻雀選手権大会を国際色豊かなものにしたと中国の大学生を招待したことです。

大阪麻雀連合会は、16年前から毎年中国の各都市を訪問して麻雀を通した市民交流を行っていますが、12年前当時は我々が中国に行くのはなんの問題もありませんでしたが、中国の大学生を麻雀の試合のために出国させるのはいろいろ困難があり、たいへん苦労しました。

過去の訪中麻雀大会でお世話になった広州市対外友好協会の欧陽江旋秘書長に電話で大学選手派遣を依頼すると共に、私が2回広州を打合せに訪問しました。

日本での身元引受人は、熊谷信昭前大阪府日中会長にお願いできました。しかし中国の学生を麻雀大会だけに出場させることについては、なかなかビザが下りません。そこで麻雀以外に学生交流や社会見学、工場見学などをするという企画書を書いて中国に送りました。

選手2人の来日が決まった後で、監督として大学



中国人学生を迎えた麻雀大会

の教授1人が追加されました。当連合会の選手招待予算が大幅に増えました。

2人の選手は、麻雀はできても日本のルールがわからない。試合の2日前に来日してもらい、ホテルに座卓の麻雀台を持ち込んで特訓です。それでも若いだけに覚えが早く、無事出場できました。毎日新聞に大きく写真入で掲載され、麻雀国際化の第一歩は成功でした。

お世話になった欧陽江旋秘書長は、たまたまその4年後に大阪の中国総領事館に領事として赴任され、2年にわたって大阪で親交をもちました。領事は「神宗」の塩昆布がお気に入り、その後も広州に行く機会に届けています。その10倍以上のもてなしを受けてもいるのですが。

哀愁の北京

河内長野市日中友好協会会長

大原 一郎



私と中国の最初の関わりは1983年の夏、初めて北京に駐在員として赴任した時です。

伊丹空港から中国民航で上海を経由し、北京に到着したのは夜でした。

私が先ず驚いたのが、空港からタクシーに乗り市街地に入るまでの小一時間、一つの信号機も無く、一度もハンドルを切ることも無く、ただ真直ぐ暗い並木道を走り貫いたことでした。最初に見た信号機は長安街に繋がる二環路を左折する時でした。

まさに、中国の特大スケールに圧倒された瞬間でした。

以来、二十年間、私は急速に変化を遂げる中国市場と格闘しながら貿易業務をさせていただきました。その間、味わった中国の情景—例えば夕闇にけむる王府井や氷上スケートをした頤和園、暗く冷え込んだ北京駅ロビーなどなど今では懐かしい思い出となりました。2002年に縁あって実家のある河内長野市の市議会議員にさせていただいてからは私が中国に足を踏み入れることはなくなりましたが、昨年夏、90歳になる母親を思い切って北京3泊4日の格安ツアーに誘いました。

このツアーには母親を心配して家族ぐるみの付き

合いをさせていただいている中国残留邦人の夫婦も参加してくれましたが、険しい八達嶺も炎天下の天安門でも結局、母親が一番元気でした。ただ、私が母に一番見せたかった煤と汗が染みこんだ雑踏の王府井は見る影もなく無くなっていました。

私は調子に乗って帰国後すぐに「来年も中国に行きますか？」と尋ねたら「もう十分堪能させていただきました」と返されました。

今となってはもっとゆったりとしたツアーをプレゼントすべきだったと悔やんでいます。

国交正常化40周年の 足跡をかえりみて

参 与
野々村 晃

我が国の田中首相と、周恩来総理と堅い握手が交わされた映像は、非常に印象深く、記憶に残っている。関西財界人及び多くの先人、陰の主役と云われる人々の努力によって現在があると思っている。辛亥革命、国交回復、孫文が信頼していた日本人、宋家三姉妹の数奇な運命、周恩来が「井戸を掘った人」と絶賛した実業家諸氏、出逢い等々人間ドラマによって日中友好の絆が出来、大阪と上海との友好都市提携へと発展、全国的にも300余都市も、都市提携交流に依り、街の特性を生かした分野に於て交流が拡大された事は非常に嬉しい限りである。

1980年代、神戸旧居留地に於て、中国油画界の作品発表を観る機会があり、中国美術家が、仏国やロシアへの留学に依って制作された作品群が主流で、具象画の素晴らしい表現力に感動した次第。折しも、



高校生絵画展 上海市香山中学新聞TVインタビュー(2005年11月)

高度成長の我国の社会情勢もあって、中国の洋画を主流に、発表する機会を得たのは1988年、中国油画事情、美術教育に関して1950年頃より比べ、急速な飛躍で、江蘇省、南京を中心とする芸術活動を大々の発表、美術大学や、総合芸術学院の充実し、クリエイターも創造に対する高まりは、伝統の中国画と共に躍進中、現在に至っている。

芸大教授の作品、著名油画家の作品展の発表企画と江蘇国際文化センターと我社G21を中心とし我々大阪府日中の芸術交流の一つとし、現在に至っています。また友好交流とし、毎年美術愛好の人々の参加により、写生旅行を開催、中国文化にふれながら、日中交流の意義を継続している。

(芸術交流の足跡)

- ・中国巨匠油画展：大阪・ギャラリー21
- ・日中絵手紙交換展：大阪・国際交流センター 上海・香山中学
- ・高校美術作品展：大阪府立中央図書館 上海・香山芸苑
- ・江蘇省書画作品展：大阪・宝塚造形芸術大学サテライト
- ・中国陞寧県児童画展：大阪・梅田みちまちスクエア
- ・江蘇省南京児童画展(予定)：大阪国際交流センター
- ・中国江南写生旅行 9回

毛主席逝去の秋に



大阪府日中友好協会
谷川 昭

1976年の秋、香港発の列車を降り、ユニオンジャックと英兵、五星紅旗と人民解放軍が立哨する中、歩いて鉄橋を渡り中国に入境した。中日友好協会孫平化秘書長差配の毛主席逝去後最初の団ということであった。

打合せで、南京行きの要望に中国側は「中日友好の妨げ」として了承しない。団長の思想性が測られていたのか、長い議論の末認められた。ある夜「紅衛兵」の腕章と毛語録を手にした通訳が2人「教え子を再び戦場に送るな」という日教組のスローガンは何ですか！ 今やベトナムの教師は……」と議論を吹っかけてきた。「革命は輸出できない。国の情勢を無視した意見は間違いだ」と反論する中で、ならば講演をということになった。雲南師範大学の講堂

に録音機が並ぶ中の2時間であった。

水上居民新村を訪ねた時、現在の差別の問いに対する応えは「差別は階級間矛盾の表れ、社会主義中国に差別はありません」。学校訪問で真中にプロ文革主任が座る座談会、校内暴力の質問に立ち上がった生徒は「教師と生徒は同じ塹壕の兵士」と一。軍事教練も見たが、保育所では子ども達もスローガンを叫び、鄧小平人形にボールを投げていた。

韶山では、毛主席を懐かしむ人々が花輪を捧げ生家に至る道を埋め尽くしていた。解放後初めての日本人として歓迎された人民公社での地産地消の食事は、何とも美味であった。ある土産店で他の客が追い出されたことなど、閉口することもあったが、宿泊した招待所はいずれも極めて清潔であった。

この時は矢田地域の団で、矢田教育共闘会議事務局長、大阪市教組東南支部書記長の僕が団長であった。

以来、訪中は80回を数えるが、国交回復10年を期して始めた上海市教育工会との交流が密度高い訪中の契機であった。呂光榮、江晨清、夏玲英歴代主席、張中勳副主席、上海市教育会堂の李佩国総経理、陸冠正・崔春吉両通訳には、大阪市教組執行委員長退任後に事業が大阪府教組に引き継がれた後の教職互助組合理事長時も今もご厚誼を頂いている。

いまひとつは、大薮二期副理事長が4月の「日本と中国」の窓欄に記してくれた「蘇州大学と交流のある大阪府教職員の会」である。会はこの16年間、張学光副学長、朱建明・徐衛日本学部長、国際交流学院の陸恵星・唐鳳診主任にはずっとお世話になっている。蘇州訪問のたびの大阪に招待した学生・卒業生達と当会派遣日本語教師達を交えた夕食会が楽しい。会長として更に頑張りたいと思う。

1本のテープが結んだ 中国高官との友情

評議員

吉川 太三



「未知の大先生」は、中日友好之船で600人の一人として来阪されました。1979年5月12日のことです。中国客船「明華号」は大阪港に接岸し、私たち大阪の大勢の友好人士たちは他府県の仲間たちとともに



「明華号」を見送る

岸壁で熱烈歓迎会を開きました。

一行は28班に分かれて京阪神から奈良、和歌山の工場、企業、施設、学校、団地などを訪問、交流するハードスケジュールをこなして、15日に大阪港を離れることになり、私たちは歓送のために岸壁に集まりました。大勢の人々ですから最高に賑やかです。やがて「蛍の光」が流れ、船上から5色のテープが一斉に投げられました。

それまで私は、五星紅旗の大旗を両手で打ち振りながら「再見再見！ 一路平安！」と叫びつづけていましたが、ふと気がつくとも1巻の青いテープが落ちていました。拾い上げて船上を見上げましたが、なにしろ12,000トンの巨大の客船で、しかもテープが何本も交差しているので、誰が投げたものかわかりません。テープのもつれを解きながら青い色を目で追っていくと、最上部のデッキで手を振っている人が見えました。背広姿やカラフルな装いの女性の姿が多い中で、紺の人民服と人民帽に身を包んだ、きわだって背の高い人です。お互いにテープを握って手を振り合っていました。このまま名前も分らず別れるのを残念に思った私は、とっさに思いついてテープに「祝一路平安」などの文字と名前、住所を書いて引き上げてくれるよう合図しました。テープを手繰り寄せたその人は、私の書いた部分を切り取ってポケットに入れ、テープを繋ぎ直すと自分の名前とメッセージを書いて私にも手繰り寄せるよう合図しました。こうしてお互いに名前を知り合ったのです。

その人の名は孫鉄先生。後日日中友好協会の本部で調べてもらおうと、かなりの高官ということでした。ただ、手紙を出したいと思いながら住所が分からないままになっていたところ、思いがけなくも私宛の手紙がとどいたのです。高い教養の伺われる美しい文

面でした。最後に次の詩が記されていました。

莫道江南隔海東 相親千里也同風
従今若許忘形友 語縦不通心可通

孫鉄先生との親密な交友は、今もなお続いております。

国交回復の前夜に

若き日の唐家璇さんとの思い出

理事

伊吹 健



文革最中の1971年に松山バレエ団の一員として訪中、7都市を巡演しました。私自身は上海バレエ団の支援で準備に先発しました。通訳として接遇していただいたのは、対友協の崔泰山さん、上海の方は瞿表さんでした。

北京市内は、朝夕自転車の洪水、人民服一色。紅衛兵の行進に街のいたるところで出会いました。

受入れの責任者は郭沫若先生。準備中はしょっちゅう楽屋にお見えになり、団員は稽古中なので私が接待役でお相手をしました。私が記録のため16ミリのカメラを撮っていましたが、撮影所からカメラマンと照明係をつけていただき、思いやりのある援助に感謝しました。その映像は、帰国後NHKや民放で大いに利用していただきました。

予備知識で知っていた親日家の廖承志さん、孫平化さんは、深夜に病院を抜け出してホテルに訪ねてこられ、深刻さを感じ、不安でした。団長通訳として現れたのが唐家璇さん。若くてハリキリ屋でした。毎日の新聞の解説を受け、模範としての革命的英雄論をおち上げられました。中国側スタッフとの昼食後の勉強会で、私が日本の季節労働者と休耕田について発言すると、彼から「翻訳を拒否します！」と「言論統制」され、気が重く鎖国って厳しいものだと思います。「林彪撃墜」の日本の新聞の切抜きを渡したらかん口令。

国慶節は分散型で、夜間は紅衛兵が胡同入り口で焚き火を焚いて厳戒体制、劇場の帰りにも身元確認のため止められる。街の四辻には「大字報」、各職場（劇場、京劇、舞踊、大学）にもアンペラに貼られた壁新聞。下放されてほとんどどこも開店休業

中。幹部は軍服の軍人。従来活躍してきた芸術家との文化活動での対立は大きく、寒風が吹き荒れていました。「海瑞免官を評す」が文化面で大きな影響力を持っているのに驚かされました。

中国を去る前、肖向前さんに広州の庭園散歩に誘われ「日本では、日本帝国主義打倒など激しいことは一」。優しく思いやりのある言葉に涙しました。

その翌年、上海バレエ団来日公演に孫平化団長と共に肖さんも来日。私は進んで接待係（生活係）を買って出ました。東京、大阪、京都、神戸、沖縄、八王子の公演の間、ホテルと楽屋で、私が中国で受けた歓待に応えるべく働きました。

日航直行便で帰途に着く一行を見送ったときの感動は、今も忘れることはありません。苦しかったことも、今は喜びです。いつまでも友好運動に携わっていかうと思っています。

国交回復40周年に思う

伯父 内山完造夫妻からつながる絆

大阪府日中友好協会

井上 浩



今自分が開いている「中国・日本両国人民の絵巻物」の244ページに「1972年9月25日 田中角栄日本国総理大臣が訪中し、29日に中日両国政府は共同声明を発表し、中日国交正常化の実現を宣言した」と記されております。

自分はこの日中国交正常化の以前と以後につきまして二つの事象を記させていただきます。

まず以前を記しますと、自分は小さい頃「上海の伯父ちゃん」「上海の伯母ちゃん」と呼んでいた、父の姉夫婦が上海で本屋を営んでおりました。伯父の名は内山完造、伯母はみき。

伯母の方は1945年1月13日に持病が悪化して昇天され、上海の地に眠っておられます。

伯父は、戦後帰国し日中国交回復に努力されておりましたが、体調を崩されておりました折、中国人民対外友好協会から療養に来ないかとの招待の電報が届きました。しかし国交回復前であったため許可がなかなか下りず、いらいらしている気持ちが父宛の葉書に読み取れます。

1959年9月16日羽田発19日北京着。歓迎会当日に

倒れ、翌朝客死
されました。し
かし歓迎宴で多
くの旧知の方々
と再会すること
ができ、さら
には上海のみき伯
母が眠っている
お墓と一緒に眠
ることができた
のは、その日が
早すぎたとはい
え、国交のない
時期に国と国と
ではなく人間関



内山完造の墓前で 王紅菊さん夫妻

係でお招きいただき、中国の地で没したのは、本人が望んでいたようになったかと想っております。

次は国交回復以後です。

毎年清明節を少し過ぎた頃に上海の王紅菊さんから、「今年も内山夫妻の墓参をしまいにしました」と、写真と手紙が届きます。身内の我々がどれほど感謝しているか、筆舌で表すことができません。簡単に申しますと、昔上海で内山書店を開いておりました内山完造・みき夫妻の上海に現存するお墓にお参りしてきたということです。

なぜこのように面倒を見ていただけるかという、彼女の父は王宝良さんといまして、内山夫妻に幼少の頃より親代わりに面倒を見て育てられ、中国人ナンバー1の番頭になった方です。彼が亡くなられてから、我々の前に三女の王紅菊さんが現れました。彼女は、父は自分たちが今このような生活ができるのも、内山夫妻のお世話になり、幼い頃から面倒を見てもらって指導いただいたお陰である、そのご恩を忘れず感謝して、自分亡き後はお墓の世話をするように言われましたと私に伝えました。以降その言葉通りに実行され、自分が墓参した時も墓の状態について意見を聞かれ、樹木等が邪魔になれば管理事務所へ撤去をお願いするなど、お墓がベストの状態にあるよう面倒を見ていただいております。

この2つの事象は、民間友好の基本である目先に囚われない末永い交流、つまり個人と個人でも心底から信頼しあい継続してお付き合いすることの大切さを示しているのではないのでしょうか。その思いから、拙文ですがこの機会に発表させていただきました。

(注) 内山完造氏については広く知られていますが、念のため説明しますと、岡山県出身、上海に内山書店を開き、魯迅、郭沫若らと交友を結ぶ。とくに当時迫害されていた魯迅を物心両面で支えた。1950年日中友好協会設立時の初代理事長。

東方紅から 国交正常化へ

理事・豊中市日中友好協会
宮本 靖彦



国交正常化40周年を心からお祝いし、益々の日中友好を願って、当時のことを憶い出してみました。

私の中国への最初の訪問は1963年(昭和38年)春季広州交易会であった。ある晩交易会参加者は広州市内の劇場で“東方紅”と言う現代バレエに招待された。話の筋は、「かつての世界最富国の中国は清朝末期欧米に食い荒らされ、そこに日本帝国主義が加わって侵略し、死に体となってしまった。然し、20世紀の初頭から湖南省出身の毛沢東が、多くの同志と共産党を結成、欧米に追随する国民党及び日本軍に対して、智勇を以て戦い抜き、十数年の後やっと1949年(昭和24年)新中国を樹立し、それまでの鉄の鎖で繋がれていた中国を解放し、未来が無限に広がっている。」という大歴史ロマンのショーで、私は大いに感激をした。是非中国との取引を大きくして、中国経済の発展に少しでも貢献したいと誓った。

1965年(昭和40年)北京上海に招待され、北京では長城、故宮、天壇等の歴史、文化に感銘を受け、同時に当時の人民の疲弊ぶりには深く同情をした。上海では今は観光のスポットである外灘が、当時は真っ黒に汚れてはいたが、高層ビルの連立の偉容に、当時は10階建てが高層ビルであった日本と比べても、戦前のNY、ロンドン、パリ、上海と謳われた殷賑ぶりに想いを馳せ、事業は上海とせねば、と思った。

1966年(昭和41年)から突如として文革の嵐が全土に吹き荒れたが、その中でも一年に数回は訪中、取引を続けたが、納期、品質の面で大苦勞をした。1969年4月には中共九全大会で、毛主席の文革勝利宣言があり、人民広場は最高潮の集会を記録したが、人民にも飽きが来たのだろうか、「紅色娘子軍」に代

表される革命京劇が「白毛女」という劇にトップの座を譲り、その美しい、優しい主題歌に人民も私達外国人もやっと癒された思いを持った。私は今も「白毛女」のレコードを大切に持っている。

文革の途中ではあったが、1970年の大阪万博時、会場内世界展の一隅で、日中貿易商社会で中国物産展を催した。商社グループで商品を分け輸入、販売をした。国交回復以前ではあったが、客が毎日殺到、売れた。売れた。雑貨も繊維製品も飛ぶように売れ切ったのは日本国民の中国への関心の高さを如実に表したものの嬉しい思い出がある。

当時日中国交回復への大きな波のうねりが広がり、私たち商社会もしばしば大行進に参加した。御堂筋や大阪城周辺をデモったが、現大阪府日中、副会長の戸毛敏美女史が、幼かった息子さんの弘君を背負って毎回参加されたのはTVに映された。

1972年(昭和47年)春突如として、ニクソン、キッシンジャーが北京を訪問し、国交回復。それ迄日本は米国に気兼ねして、国交回復交渉が遅れていたのだ。私達は米国の独断専行に腹立たしくも感じたものだ。その後、すぐ私は北京に行き、紡織総公司のある部門の經理の崔東秀氏とお茶を飲みながら、「早く国交回復して、直接行き来が出来れば好いがね」と話したのを鮮明に覚えている。

数か月後、田中角栄首相と大平外相が北京に行き、毛沢東主席、周恩来首相とがっちり握手をして、国交正常化の署名をした。私たち民間貿易業界もなお文革のつづく中国へ続々と出掛けて行き、中国からも代表団の訪日が始まり、取引が正常化へと進んでいった。

国交正常化 40年に際して

大阪府日中友好協会
花谷幸比古



私が大阪府日中友好協会へ入会して42年目になります。入会のきっかけは、父親から20歳になったら、大阪府日中友好協会の会員として活動しなさい、と言われていたからです。私も息子が20歳になったときに入会させています。これで3代に渡り大阪日中の会員となりました。私の父親は鶴見神社の宮司で

ありながら、大阪府日中友好協会の幹部として、日中国交正常化に努力しました。

当時、神職が日中国交正常化を進めること自体、考えられない時代でした。それというのも戦前から父親は神職として神社に勤めながら、鍼灸師の免許を取得していました。昼は神社で夜は鍼灸院を開業し働いていたからです。そのため中国の東北地方の鍼灸師と密接な交流していたのです。父親は宮崎滔天を尊敬し大アジア主義で孫文先生・魯迅先生・毛沢東出席を尊敬していました。戦後、中国は近くで遠い存在をいつも嘆いていました。

はっきりと言って父親の時代は日中友好協会が主導して国交回復させ、日中両国とも相互信頼がありました。父親は私に、「日中友好の原点は、素直に日本軍が中国大陸に侵略した事実を心からお詫びすることから始まる。日本と中国は、戦後処理に関するきちんとした話し合い、戦争責任について日本が心から謝れば、中国人はそれ以上追及しようと思っている人はそれほどいないはずだ」と言っておりました。私はこれが日中友好の原点だと思っています。

父親が生きていたならば日中国交正常化が40周年になっても日中関係が脆弱で相互の信頼関係が失われた状態が続いている姿にがっかりするでしょう。その原因は日本と中国は、戦後処理に関するきちんとした話し合いを行わないまま、経済を優先する友好関係だけが突き進んでしまったからです。両国とも「曖昧」という仮面をかぶったまま、ギクシャクした関係のまま進んでしまったのです。そのことを危惧した父親たちとその雨宮さんらのメンバーは亡くなり、あるいは高齢者となっているか、どちらかだと思います。それは中国でもいえます。

ところで私も青年部に入ったころは、20代の若者たちで生き生きとしていました。第1回の中国からの留学生が大阪外国大学に入学した頃、年に数回、彼らを連れて山や海など1泊旅行をしたものでした。銭湯に連れていったり、いろいろな大阪の文化を実体験させました。一度、パチンコ店に連れて行き雨宮理事長に怒られたこともありました。

この度、私は大阪上海友好協会を立ち上げます。

30代を中心とした会員構成としたいと考えています。せめて大阪市と上海市はよく似た都市であるので、青年交流を盛んにし、私が青年部であったときと同じで、議論もし仲良くけんかもし、互いにギクシャクする日中関係を打開してもらいたいためです。将来の日中関係に遺恨を残さないためにも大阪上海友好協会を立ち上げますので、暖かく見守って下さい。

卓球、中国語、そして 太極拳へ —私の40年史

理事・NPO法人大阪太極拳協会副理事長
NPO法人大阪府武術太極拳連盟副理事長
(公社)日本武術太極拳連盟審判委員会委員長

西村 誠志

1971年3月初旬、22歳の私は、結果は不掲載であったが、以下の趣旨の新聞投書をした。「第31回世界卓球選手権大会への中国代表団の参加を喜ぶと同時に、法務省の姿勢には大いに憤慨する。友好親善の為に来日する客人(中国代表団)を束縛(『個別審査』)する理由など一切ない」と。当時、仕事が退けると、日課の如く大阪府立豊中勤労青少年ホームで卓球に興じていたが、卓球のスタイルはなぜか「前陣速攻型」(中国式)であった。

翌1972年春、幸運にも大阪外国語大学二部(夜間部)中国語学科に入学できた。そして秋、『現代中国研究序説』(小林武三教授担当)の10月7日(土)の授業のテーマは、「日中国交正常化について」のレポート提出であった。私が提出したレポートは一千字弱で、要約すれば、①「国交」を打算の産物と見るジャーナリズムは偏見であり、②戦争賠償請求放棄の意義はとても重い。③日中国交正常化はアジアの緊張情勢の緩和に役立ち、世界平和に貢献する、であった。

さて、40年前を振り返っても、太極拳になぜ興味を抱き、それがいつ頃だったかは判然としないものの、1973年10月23日の出来事は記録していた。友人の阪大研修医や医学部生らと共に「中華医学会医学考察訪日友好代表団(一行11人)」を、誠に失礼ながら夜遅くに訪ねて、明解を得られなかったものの、「太極拳はなぜ健康に役立つのか？」等々の質問を投げ掛けている。私が直接、初めて太極拳に関わったのはそれから2年後の1975年6月28日であった。7月4日からの岸昌副知事を団長とする「大阪日中友好の翼訪中団」派遣の前の、いわば景気づけの意

味合いもあつての講習会として開催された、と記憶するが、そのことよりも、たまたま当日の参加者の名簿を整理させられたのが、この私であった、ということの方が今となっては重大事である。このことがなければ、今以て自分自身「太極拳」に関わっているかは不明である。それにしても当時の雨宮礼三理事長の笑顔が脳裏に浮かんだりするが、……二回目の講習会の為に会場確保を、と求めてめぼしい会場に電話しても「タイ・キョク・ケン、何ですか、それは?? ウチはお貸しできません!!」と、当時はそのような時代であった。

それから三十数年を経て今年、日本からは269名が参加し、自身18回目の訪中となったが、7月8日～9日に上海で開催された2012年日中韓太極拳交流大会は盛会であった。特に「上海市第一回市民運動会太極拳デモンストレーション」の祝賀を兼ねた8日朝の浦東畔には二千数百人の太極拳愛好者が集って、ノスタルジックな黄浦江西側、オールド上海を望めて壮観であった。今回の訪扈(※上海行き)で、別な収穫もあった。上海には数十人の友人、知人がいるが、今回新たに無名の太極拳名人、蔣忠保先生と知り合えたことである。10日午前、彼我の太極拳の技量のレベル差に愕然となりつつもモチベーションは寧ろ高まった、貴重な二時間を過ごせたのである。「捨己従人」(王宗岳)や「無形無象、全体透空」(李道子)は、太極拳の極意、と言えるけれども、こちらは目標として置いておくとして、自身、今回のカルチャーショックを温存し、引き続き倦まず弛まず努力するならば、ひいては今や大勢いる太極拳愛好者の為

蔣忠保先生(左)の
「櫻膝拗歩」
2012.7.10 午前 ▶



2012.7.8 朝

に少しは役立つのでは、と思う次第である。道は遠いけれども。

私の体験をもとに 日中国交正常化40周年に思う

阪南市日中友好協会

山本 義輝



私は昭和5年(1930年)生まれで、高知県の農家出身。若い頃の農業は鋤で耕し、四つん這いでの田植や草取り、収穫は鎌でと、1000年以上前の弥生時代と大差ない作業方法でした。

19歳の時、内村鑑三著「後世への最大遺物」を読み、秋の農業祭で耕運機の実演を見て、「これからの農業は機械化が必要。そのための仕事が私の後世への最大遺物—社会への貢献だ」と決め、20歳の昭和25年(1950年)、高知県農業試験場に就職しましたが、当時の農林省指導はまだ機械化よりも畜力(牛馬)利用推進と遅れていました。

しかし農民は食料増産には機械化が必要との意識が強く、農機メーカーも普及に熱心で、やがて大阪の久保田鉄工(現・クボタ)から、開発部門強化のための誘いがあり、入社したのが昭和30年(1955年)のことでした。

当初は耕耘機などの歩行型トラクタとその作業機開発を担当、昭和33年(1958年)には中国へ耕耘機を300台輸出して、河北省と遼寧省の国営農場で使用されて好評だったので、これをモデルにして中国でも手扶拖拉機が製造されるようになりました。

昭和38年(1963年)からは田植機の開発を担当。田植作業は女性が主役の重労働のため、機械化は関係者の長年の悲願でした。

開発を始めて5年後の昭和43年(1968年)春、播種・育苗・田植をシステムとして解決した田植え機50台を初めて生産・試販すると好評で、他社もクボタに追随したため急速に普及しました。現在農村で使用されている田植機がこの方式です。

中国でも農業現代化の一環として田植機を開発していましたが、手植え用の苗を植える機械に固執したため解決できず、日本に学ぶことになり、私は昭和48年(1973年)に初めて中国を訪れました。以後、定年退職するまで6回、広州市・北京市・江蘇省・

黒龍江省で技術交流や技術協力を行いました。

クボタを定年退職後は、高知大学農学部研究生2年終了、国際協力事業団(JICA)専門家として、1994~99年の間に中国農業大学(北京市)、黒龍江省(満蒙開拓団墓地のある方正県)、湖北省農学院(農科大学)で農業機械化に関する人材育成・技術移転を行いました。

70歳でJICA定年後も、農機企業の中国訪問技術交流参加や中国側招待による技術交流、国内外での中国農業や農業機械化に関する講演を行うなど、39年余に亘って中国の農業現代化と友好活動に微力を尽してきました。82歳になった現在も、幸い健康に恵まれていますので、今後も専門の知識や技術を活かして、日本と中国の友好に貢献したいと思っています。

—今、私の日本と中国—

堺日中友好協会

梅田ことみ

日中友好40周年記念特集号発行にあたって、貴重な紙面を頂きましたが、中国と日本の歴史や関わりに造詣の深い方々とは違って、今まで私は単純になぜか中国語が好き、中国での一人歩きが好きということに尽きる人間です。両国間のこれまでや、現在の難しい問題に、それほどの知識も意見も無く、このことはあまり褒められたことではないでしょうが、それでも自分なりの関わり方で、何かしらの交流になっているのではないかと感じてきました。

中国語の学習は、私も会員であります堺日中友好協会が、定期的に年4回開催している「中国文化講座」のメインといえる中国語教室で、現在もお手伝いをしながら勉強させてもらっています。つたない中国語に、わきまえない自信をもって、頻繁にとっても楽しい中国一人旅をしています。ほんとうに楽しいです。この一年のうちにも、パンダも抱きました、少数民族ミャオ族の衣装も着せてもらいました、黄河でも長江でも船に乗りましたし、青蔵鉄道を始め中国の列車もよく経験しました。広く大きな中国に行くと、何故かしら、呼吸がしやすい気がします。



中華人民共和国駐大阪総領事館主催の中国知識検定は今年4回目で、私は1回目から毎回参加させてもらって、賞品をたくさんいただきました。毎年かなりの難問で、回答するためには、いろいろ調べて勉強する必要があります。その甲斐あってか、今年の7月1日に神戸大学で行われた「中国知識検定—中日国交正常化40周年記念」決勝で、大賞を頂くことができ、10月に受賞者6人で河南省への旅行をプレゼントしていただいています。はからずも、この記念の年に、中国の歴史の源である黄河文明に続く殷墟を訪れ、日本と中国がそれによって共に結ばれている「漢字」の歴史のルーツである甲骨文字にも触れることが出来ることに感慨深くもあり、大変うれしく思っています。

最後に、仲良くしてくれている若い中国人の人達に、理解され好意を持ってもらえる日本人になるように接することで、今、小さくはありますが、日本と中国の交流を少しでも深めて行けたらいいなと思っています。

半導体技術で実現した 60年前の「志」

サンユレック(株)相談役・高槻市日中友好協会
奥野 敦史



今から約60年前、私の郷里である現在の吉備高原都市の中学校に、この村出身で元・日中覚書貿易代表の岡崎嘉平太先生が来られ、「これからの日本は隣人である中国と仲良くしていかなければならない」と熱く説かれました。これを聞いたときの感動が、私がいま中国に強い思いを寄せ、その発展と生活向上に半導体技術者として寄与しようと努めている原点

となりました。

2001年8月、北京で開かれた「半導体パッケージングの国際会議」で最優秀論文に選ばれと、早速に上海の復旦大学から「次世代半導体パッケージング開発研究所」を開設してほしいとの要望がありました。2002年4月、復旦大学とサンユレックとの共同研究所を開設して所長に。同年7月、上海市人民政府からの依頼で嘉定区の「上海復華高新技术園區工業団地」の特別顧問に就任、「安心、信頼、夢」をテーマに先端工業団地を開発して、わが社を含む日本の中小企業の中国進出をサポートしました。

2003年、上海で開催された「第5回電子技術国際会議」で、白色LEDの技術論文が最優秀賞を獲得。05年には、上海の電力不足を救うため「ソーラー+高輝度白色LEDの街灯」を中山公園に設置、市民から非常に感謝されました。

2007年、これまでの中国に対する功績が認められて、上海市人民政府直轄の上海半導体照明技術研究所の中心顧問に選ばれ、電力不足を補うため、本格的に照明用LED化を推進しました。さらに、LED照明の普及促進のため、毎年上海でLED照明展示会を開催することになり、展示会とセミナーの実行委員を務めています。

2010年、建築関連技術では中国で最も有名な同済大学に「先端材料共同研究所」を開設して所長に。そして11年の上海万博では夜間照明のLED化を進め、その功績で「上海万博功労賞」を授与されました。このように、私と中国は切っても切れない縁に結ばれています。

次のテーマとして、老人問題がクローズアップされています。今後、日中両国とも急速に高齢化社会に突入します。

とくに中国では65歳以上の高齢者が2億人以上となり、そのうち寝たきり老人が1億人近く、痴呆症になる人が数千万人と予測され、気の遠くなるような状況が間違いなくやってきます。この問題を解決するには、日本の最先端高齢者医療システムをベースに、日中のイデオロギーを超えた力強い協力がが必要です。この問題を解決するため、力のある限り協力していきたいと思っています。

大阪市と上海市が 友好都市調印した日

評議員

萩野 信隆



1974年大阪市と上海市が友好姉妹都市協定が締結された。

あれから、はや40年が経つ。

大阪市の近藤助役を団長に、各界団体が友好訪問団を組織され、小生に団長通訳の任務が負わされた。

上海市人民政府へ表敬訪問、その後、上海の動物園に大阪動物園で飼育していた、チンパンジーを記念に贈呈。その後 各階層に分かれ、青年と学生は国立大学へ、中小企業関係者は工場見学、杭州名産の錦織工場の見学に行き、それぞれ関係の深い業種と交流を行なった。

教育関係は幼稚園から各種学校へそれぞれ交流訪問を精一杯おこなった。道中の移動は大型観光バスに分乗し上海市の市街を隊列を組み、交通管制のしかれた目抜き通りをノンストップで走り抜けた。先頭には近藤助役と上海市長が中国で最初の国産高級乗用車の「紅旗号」を先頭にパレードがおこなわれた。沿道には上海中の市民が「熱烈歓迎」を叫び迎えてくれていた。

夜の歓迎晩餐会は人民大会堂で行われ、満場の市民代表の前での挨拶では、さすがに私の足が震えて止まらなかった。

翌日は杭州の遊覧で西湖めぐりや有名寺社見学、錦織物の工場見学、西湖湖上から船で見物など忘れられない数日だった。

あれから、はや40余年、上海は万国博覧会を成功させ、中国の経済発展の最先端を行くまでになっている。

先日、報道で上海の富裕層が大型客船で神戸に上陸、大層賑わった、と報じられていた。関西もさらに新しい時代の日中交流を盛んにして行きたいものだ。

「僕らに何ができますか」

理事・シャロンの花イエスキリスト教会主任牧師

久保恵三郎

2009年6月18日、四川大地震が勃発して1年経ちました。

1995年1月13日の阪神淡路大震災から14年経っていました。

こんな災害時、世界各地の被災者たちはその体験を生かす助っ人として、世界各地に飛び出しました。被災地で、あるいは故郷に踏みとどまり、そのノウハウを地域のために生かそうとする大勢の若者たちがいたのです。かつての暴走族や「不良」だった若者たちもまた「ボランティア」でした！

「僕らに何かができますか」と、北川チャン族光明村に、寄せ玉のように若者たちが集まってきたのです。村の医師が「診療所が破壊され、けが人が多く出てどうにもならない」と、悲鳴をあげていたその時です。

成都市から青年旅館を営む上田麻紀さんが、日本人や中国人の旅行者を連れてきたのでひと騒ぎになりました。四川外大からは、日本語を学ぶ玉三舌さんが、雲南省から東洋医学を学ぶ吉椿雅道さんが駆けつけました。

みんなの姿を見つけた村人たちが「やあまた来たね」「また会えたね」と声をかけました。彼らは炊き出しや足湯を始め、瓦礫を一つ一つ片付けていきました。そのさりげないボランティア活動を目ざとく見つけた新聞記者がインタビューしました。ある村人は「言葉は通じなくても、そばにいてくれるだけで気持ちが救われるようだ」と話しました。



久保さんと北京語言大学学生代表の記念写真

吉椿さんが楽しげに語ってくれました。「この村でレンガ造りの家が崩壊する中、木造家屋は倒れずに残っているのに気がついたのですが、それが村人たちを勇気付けたようです」と。

つまりこれを聞いた村人たちが「木造の細かい細工は本来中国人が得意だよな」と、木造建築での再建を提案し、話し合いが重ねられ、計画に賛同した中国人建築家が無償で設計を請け負い、村人総出で協力して4棟の重要な建物を完成させたというのです。「僕らのようなボランティアでも、被災者自信が立ち上がるきっかけを創ることができるのですね」。

- ① そんな思いを吉椿さんは中国語で「我 在一起」（私はそばにいる）と表現した
- ② 被災地メッセージとして郭さんは「明日会更好」（明日はもっとよい日に）とアピールする
- ③ 日本人は東洋医学を、中国人は日本文学を、二人が学んだ知識と知恵が現場で一つになって溢れ出る、そんな人と人との心根ほど強いものはありません。それが「命」の「愛」といってよいのです。

「大地ゆれ 芽出でたる 人の心根かな」

終わりに、魯迅先生の「題 三義塔」の一節を一。

度盡劫波兄弟在（劫波を渡り尽して兄弟あり）
相逢一笑泯恩讐（相逢いて一笑恩讐ほろぶ）

「2つの友好交流」を 合わせて

副理事長

中務 武志



この記念特集号に、会員の皆さんのご寄稿をお願いしたところ、多数の方々から貴重な原稿をいただきました。編集担当者として厚くお礼申し上げます。

一読してまず感じたのは、わが大阪府日中友好協会の歴史の厚みと重み、会員の皆さんの幅広さ多彩さでした。年齢、経歴、思想信条、立場それぞれに異なる方々からの貴重な証言と提言は、私自身にとっても初めて教えられることも多々あって、改めて先輩諸氏の長年に亘る活動とご苦勞に思いを馳せ、敬

意を抱くとともに鼓舞されたことでした。

以下は私見ですが、私たち日中友好協会の、そして個々の会員の活動と役割には2つの柱があるのではと思います。

第1、日中間の交流がまだない時期からの友好活動を積み重ねて国交正常化への道を拓き、中国から厚い信頼を寄せられている全国的な民間友好団体として、大きな立場から中央や省、大都市の友好協会、対外友好協会などを通じての「大きな交流」です。大規模なイベントや交流行事がこれに当たります。

もうひとつは、小規模な地区協会や個人が行う「草の根交流」です。この寄稿文にもあるように、その例は多くあります。

もちろん、この2つには重要性において差異はありません。「大きな交流」は広い範囲にわたって大きな影響を及ぼすでしょう。ただ、一過性の形式的なものに終わってしまう例も多々あります。

一方小さな組織同士、個人と個人の「草の根交流」は、親密な交流を重ねることによって強い友情と信頼関係が生まれ、それが周囲へも少しずつ波及していくことで小規模ながら両国市民の相互理解醸成につながるという面があります。その例もまた多々あります。

「大きな交流」と小さな「草の根交流」、この2つを合わせ、補い合うことでより実りのある友好交流活動となるのではないのでしょうか。

日中間あるいは中国国内で何か問題が生じると、マスコミの影響もあって反中・嫌中感情が高まります。比較的温厚な友人、知人からも「いまの中国は理解しがたいところがある」と聞かされたりします。そんな時には、できるだけ冷静、客観的に中国の立場、状況、考え方、国民性などを説明して、理解を求めようにするのですが、同時に「そういう見方、考え方もあるのか」と目を開かされることもあります。

私たちはどうしても日中友好活動に携わる立場からものごとを見がちですが、普通の良識ある市民の中にある批判的な目、声の存在を理解し、私たち自身も冷静な批判の目を失うことなく、中国の友人として一般市民に代わってこれを中国側に伝えていく、これも私たちの役割のひとつであり、市民の支持、信頼を得る道だと思っています。

日中両国の よりよい未来へ!

●●● 日中国交正常化40周年記念祝賀メッセージ ●●●

会 長
日中経済貿易センター名誉会長

谷 井 昭 雄

副会長・理事長
(株)林企業経営研究所代表取締役会長

林 昭 嘉

副会長
池田市日本中国友好協会名誉会長

藤 尾 昭

副会長
大阪府社会福祉協議会会長

梶 本 徳 彦

副会長
関西外国語大学教授

戸 毛 敏 美

お互いに襟を脱ぎ草の根の交流、
本音での交流を更に積み重ね、「以
民促官」民を以って官を促して行
きましょう!

中国駐大阪総領事

劉 毅 仁

NPO大阪府日中友好協会は成立
して62年来、中日両国の民間友好
交流を促進し、国交回復と両国関
係の発展のため大いに活躍されま
した。この国交正常化40周年とい
う節目の年をきっかけとして、今
までの実績を踏まえ、更なるご貢
献をされることを祈念いたします。

副会長
豊中市日中友好協会会長

田 中 潤 治

日中国交正常化あつと言う間の
40周年、中国は今、世界トップレ
ベルの国と成りました。グローバ
ル社会のリーダーとしての役割を
中国が担うには、日本と中国の相
互理解と信頼が肝要です。平和の
構築に相互に頑張ろう。

副理事長
丸山物流(株)代表取締役会長

小 田 眞 弘

副理事長
日根野公認会計士事務所所長

日 根 野 文 三

副理事長
堀田歯科医院院長

堀 田 雄 一

副理事長
(株)日中語学センター代表取締役

大 藪 二 朗

吹田市日中友好協会会長

高 津 昇

日中国交正常化40周年を心から
お祝い申し上げます。この記念す
べき年を契機に日中友好がさらに
進展するよう諸事業を行ってまい
ります。

堺日中友好協会会長

曾 我 部 篤 爾

40年前の状況下での決断と以後
の発展に尽力された方々への感謝
を忘れず、どんな状況下でも「你
身体好嗎?」と気軽に声をかけら
れる人を増やしましょう。

相談役
八尾市日中友好協会会長

田中 順治

日中国交正常化40周年という記念すべき年にあたり、様々な記念事業が実施されますが、幅広い分野で交流を深めていただき、両国間の絆がより一層深まりますよう祈念いたします。

理事
大阪三島日中友好協会会長

大友 康亘

阪南市日本中国友好協会

豊中市日本中国友好協会 会員一同

日中国交正常化40周年をお祝いし両国が動くことのない隣国として国民間の友好が更に年毎に高まり相互訪問が一層増えますように。

相談役
藤井寺市日中友好協会会長

井 関 功

監 事

八 浪 暢 生

日中国交正常化40周年を祝い、先人のご苦勞を偲ぶと共に、昨今の日中間の現状から、これからの友好活動の重要性を痛感します。

理 事
NPOスペシャルオリンピックス日本
奈良会長

安 田 順 恵

感無量です。50周年を熱烈に祝賀できるように、日中双方の人々の努力を期待します。

評議員
大阪市立大学大学院医学研究科・環境衛生学
公衆衛生学・女性病態学(産婦人科学)
かげやま医院

蔭 山 充

時の流れの早さは矢の如く。歴史の深さは海の如く。「日中国交正常化40周年」おめでとうございます。私も伝統医学を通して“日中友好”の為に日々東奔西走しております。

大阪精武体育会会長

永 野 則 彦

祝 日中国交回復40周年
—中国武術を通じて日中友好を—

豊中市日中友好協会理事
行政書士(入管業務申請取次)

吉 岡 誠 一

日中国交正常化40周年おめでと

うございます。

評議員会副議長
NPO法人礼美協会・日本和装学園会長

松 島 弘 子

私共は、きもの民間大使として上海万博会場に於いて「日中友好親善きものフェスティバル」を開催し日本の伝統文化の素晴らしさを中国の人々に伝え、今尚友好を深めております。

理 事
日本舞踊藤間流藤間佑香里

城 明 子

日中国交正常化40周年おめでと
うございます。

今後も日中両国が力を合わせ
ますます友好と相互理解が深ま
るように努めましょう。

評議員会議長

森 下 敏 夫

“祝す日中国交正常化40周年”
正常化25周年は上海南京路雨中の記憶、当時より経済、特に中国の成長には目を見張るものあり、日中相携え世界平和に寄与すべきである。

常任理事
ジャパンパーツサービス株式会社
代表取締役会長

石 田 修

私が生まれた1949年が中国建国の年で有り、又日中国交正常化の

年は私が社会人一年生の時で有り、そして府日中友好協会加入が20年前と、節目節目に日中友好に関連し、微力ながら日中友好に寄与できている事を非常にうれしく思っております。

評議員

谷口公利

1972年以後、近くて遠い国同士はお互いが経済の発展を遂げ世界を制する勢いで走り続けています。これからも日中の交流が平等に安定的に行なわれることを願っています。

参与

竹谷修太郎

日中国交正常化、40周年に対し、心より、お喜び申し上げます。

一衣帯水の日中は、青少年、壮年、高年層共々、芸術、スポーツ、文化面で信頼される隣国となりましょう。

評議員会副議長
社会福祉法人大阪自輿会理事長

徳田勝彦

日中国交正常化40周年を祝します。思えば歴史の変化の目覚しさに沿って先駆者諸先生の努力の賜物と思い尊敬の念を禁じえません。益々の発展を期待しています。

理事
日本篆刻家協会副理事長

尾崎蒼石

日中国交正常化40周年、おめでとうございます。私は1979年に初めて訪中、以来多くの書家や篆刻家との出会いがありました。これも先師梅舒適先生のお蔭と感謝しています。

薬師寺長老

安田暎胤

慶祝！さらなる真の友好発展を願っています。

評議員
園田学園女子大学准教授

廣内裕子

日中国交正常化40周年おめでとうございます。多文化共生社会の現在、これからも日中友好の交流に微力ながら貢献できることを願っております。多方面での建設的な交流を!!

評議員会副議長
高槻市日中友好協会副理事長

金谷美津子

参与
(社)日本美術家連盟会員

野々村 晃

常務理事
NPO法人大阪太極拳協会理事長

川崎雅雄

理事
(株)五大陸部長

長谷川由子

(株)アキコ・カンパニー代表取締役

大園あき子

参与

今村直子

事務局長

藤井秀幸

副理事長
阪南市日中友好協会副会長・理事長

中務武志

PET検査の最大のメリットは、
がんの早期発見、早期治療による救命です

私たちは、
日本の先端医療技術を持つPET検診機関と
提携しています。

NPO大阪府日中友好協会 豊中地区協会

国際創健委員会

☎06-6773-0033 FAX06-6773-0066



第12回 大阪府日中通常総会を開催

5月19日（土）に第12回大阪府日中の通常総会が中之島センタービル3F リーガロイヤルNCBにて開催された。

出席者数は379名（300名の委任状名を含む）。定款30条に基づき、全会員の3分の1以上につき成立し、議事録署名人として、明石啓、松田永茜の2氏を指名した。

- ◆第1号議案 2011年度事業報告、決算報告、監査報告について、賛成多数でこれを承認し、本案は原案通り可決された。
- ◆第2号議案 2012年度事業計画案、予算案についても承認され原案通り可決された。
- ◆第3号議案 役員、評議員、顧問の一部交替)についても承認され、原案通り可決され、監事として新たに阪之上清以弥氏が就任された。

*質問、発言として、

- 1) 会員数の紙資料が欲しい、各商工会議所との連携を強化すべき
- 2) 北摂地域では各地区協会が協力・連携して活動を推進している。
- 3) 大阪三島日中から、昨年設立してからの支援への御礼と今年は活動を拡大していくとの表明があった。

総会終了後、女優の中野良子様から国交正常化40周年記念講演があり、また総会レセプションには来賓含めて100名の参加があり、大いに盛り上がった。



総会後の中野良子様の講演



総会後のレセプション会場



中野良子様を囲んで来賓の于副総領事、胡さん

第13回 日中友好交流会議が貴州省貴陽市で開催

5月24、25日の両日、貴州省貴陽市にて第13回日中友好交流会議が開催された。

今回のテーマは「日中国交正常化40周年・地方と地方の交流を促進しよう」で、少数民族や雄大な自然で知られる貴州省は、近年は中国政府が進める西部大開発の影響で経済発展もめざましい。会議では新時代に向けた日中関係を語り合いました。

会議には中国側から74名、日本側からは143名が参加、大阪府日中からは田中潤治副会長、小田眞弘副理事長をはじめ5名が参加しました。

開会式では唐家璇会長、趙克志貴州省長、加藤紘一会長、丹羽宇一郎大使からスピーチがあり、井頓泉副会長、酒井哲夫副会長から基調報告がなされました。その後、3グループに分かれて討議が行われました。



開会式での唐家璇会長(左4)、加藤会長(左3)、丹羽大使(左2)

会議では新時代に向けた日中関係を語り合いました。

- ◆民間交流のあり方について追求した前回の会議(日本・高松)を踏まえ、それぞれの地方都市で活発に民間交流を進め、両国の相互理解を深めることに役立つことを目標にする。
- ◆地方の政府関係者が多く出席する中国側と、民間の協会会員らで構成する日本側、いかにして官民一体で、中国の都市と交流していくかについても考える。
- ◆友好交流会議の中国での地方開催は、成都での第11回会議(2007年)に続いて2回目。日本ではこれまで、守山市(01年)、長野市(05年)、高松市(09年)と開いてきた。

日中関係が新たな局面を迎えたと言われる近年、両国の地方都市で友好交流会議を開く意義は、大きくなってきています。<「日本と中国」より抜粋>



閉会式で次回、2014年に大阪での再会を表明する小田副理事長

25日の閉会式の最後を締めくくる形で、大阪府日中の小田副理事長が演壇に立ち、次回の日中友好交流会議の開催地として、大阪が名乗りを上げるとの表明がなされ、会場から万雷の拍手で承認されました。

大阪・上海 少年サッカー交流大会

第8回 大阪平野スポーツフェスティバルが開催

第8回大阪平野スポーツフェスティバル（大会委員長・中西建策）の中学サッカー交流大会が7月14日～26日開催された。日中国交正常化40周年記念として友好都市である上海市から全中国で3位の浦東新区の上海市江鎮中学サッカーチーム一行27名（選手20名）も招待された。昨年、中国チームの参加の準備をしていた時に東日本大震災が起こり、見送る事となったが、当協会は昨年来橋渡しの役割を果たし、1年を経て今大会に参加する運びとなった。上海市人民対外友好協会の龔毅常任理事を団長とする一行は7月21日に大阪に入り、22日には大会関係者との歓迎レセプションがあり、当協会からは青木俊一郎副会長ら4名が参加した。

実行委員長の伊沢光晴氏は歓迎の挨拶の中で「上海から来られるチーム関係者の皆様に、サッカーの



上海市江鎮中学サッカーチーム一行



試合風景 白のユニフォームが上海チーム



挨拶をする団長の上海人民対外友好協会の龔毅さん

試合交流だけにとどまらず大震災に負けず頑張っている姿や、日本人のもてなしの心、思いやりの心を感じて頂ければと思っております。日本の子供たちに対しては、中国の子供達と交流する事で大阪・日本にとどまらずグローバルな視点を持ち、アジア・世界に目を向ける機会になる様に期待しています」と述べられた。その後、一行は23日の舞洲総合グラウンドでのトーナメント開会式、堺市金岡陸上競技場での26日まで4試合の交流を行い、その後、箱根を経て帰国の途についた。

日中国交正常化40周年を記念して 中国人留学生西日本地区学友会が 文芸の夕べを開催



日中国交正常化40周年と日中国民友好年を記念して、7月8日の午後、中之島公会堂で西日本地区学友会が文芸の夕べを開催した。西日本地区一大阪、京都、岡山、広島、徳島、島根、高知などの中国留学生、日本の学生及び関西地区の華僑華人団体、日中友好団体、日本友好人士ら1000人が集った。

開催に当たり、郭子銘・常務副会長が、「中日国交正常化40周年という記念の年に当たり、演芸活動を通して、中日青少年交流のプラットフォームを築きたい」という旨のあいさつがあった。つづいて、中国総領事館のコンドス・ユスフ副総領事、大阪府日中友好協会の谷井昭雄会長が、それぞれが熱意あふれる「中日両国青年が深く交流し、相互理解を増進し、日中文化交流を促進しよう」とのあいさつを述べた。



松井一郎大阪府知事のメッセージも紹介された。

モンゴルの馬頭琴、ウイグルの踊り合唱など、日本側からも踊りと能などが華やかにくり広げられた。



当協会からは田中潤治・豊中市日中会長、曾我部篤爾・堺日中会長、吹田市日中、高槻市日中等から大勢が参加した。

国交正常化40周年記念

第4回中国知識検定

梅田さん、竹下さんが大賞

今年で第4回となる中国知識検定は、中高学生の部では15名、大人の部では、予選問題に参加した100名近くの中から18名が神戸大学で行われた決勝戦に臨んだ。

大人の部の決勝戦では昨年以上に白熱した戦いが繰り広げられた。予選問題同様、決勝問題も広範囲にわたり出題され、幅広い知識が要求される。中国史及び中国に興味がある人や中国語を学んでいる人たちにとってこの中国知識検定は、とても励みになる試験であるし、また多くを学べる試験ともいえる。

今年は堺日中友好協会の梅田ことみさん、豊中市日中友好協会の竹下晃治さんを含む6名が大賞を受賞され、堺日中友好協会の中川健一さんを含む2名が



神戸大学での決勝大会

優秀賞を受賞された。

受賞された方々本当におめでとうございます。

そして大賞以外の方は来年こそ大賞目指してがんばってください。

総領事館で 中国映画を見よう

中国総領事館では国交正常化40周年を記念して1月から中国映画を上映されています。今後のプログラムは以下のとおりです。

- 9月20日(木) 「茉莉花開」
- 10月10日(水) 「一輪明月」
- 10月23日(火) 「シティ・モンキー」
- 11月6日(火) 「私に榮譽を」
- 11月22日(木) 「海洋天堂」
- 12月5日(水) 「囲碁王と彼の息子」
- 12月18日(火) 「孔子」

会場：中国総領事館 1階上映室

時間：14：00 開場

ドキュメンタリー映画と劇映画

予約要：毎回20名。観覧希望者は、総領事館のホームページをご覧のうえお申し込みください。予約締め切りは、上映1週間前の17：00。

入館：身分証明書を必ずご持参ください。

円満成功!

陳氏太極拳 交流フェスティバル2012

大阪府日中友好協会ならびに大阪府武術太極拳連盟の後援を頂き、5月27日(日)に交野市立総合体育施設いきいきランド交野のメインアリーナにて陳氏太極拳交流フェスティバル2012を、大阪陳式太極拳研究会(大阪太極拳協会内)の主催で行いました。

陳氏太極拳の普及と向上を目的に1997年に大阪太極拳協会の中の自主運営組織として設立した当研究会は、今年で15周年を迎えました。この間、2000年からは陳氏19世太極拳第11代伝人の陳正雷大師を中心とした河南省陳氏太極拳友好交流団を毎年大阪に招聘し、今年は第11次陳氏太極拳友好交流団として陳正雷大師の入室弟子である張東武老師と第1回目から通訳として来て頂いている金成男氏の2名を5月23日から6月5日までの2週間招聘致しました。また、太極拳の発祥の地河南省への訪中研修団も毎年派遣し、研究会会員の太極拳のレベル向上と日中友好交流に努めています。

今年設立15周年を迎え、記念行事として、陳氏太極拳愛好者の交流と上手下手にとられることなく日頃の成果を披露し楽しむことを目的として、このフェスティバルを開催致しました。

3部構成で行ない、第1部は愛好者によるグループ発表会、第2部は張東武老師による特別表演を中心に研究会主宰の住石や研究会会員の全日本大会入賞者による表演、招待者各位による模範表演を行ないました。第3部では日本初公開となる陳式12式を張老師に紹介して頂きました。また、フェスティバ



張東武老師(左2)

ルのオープニングは神戸華僑総会舞獅隊の皆様による中国獅子舞で華やかに飾って頂きました。

フェスティバルは計17チーム、延べ260名のグループ発表会出場者

と一般参加者107名のご参加を頂き、盛況の中に無事終了する事が出来ました。

また第11次河南省陳氏太極拳友好交流団による特別講習会は張東武老師の熱心な御指導のもと、楽しく且つ有意義な講習会と相成りました。張東武老師と通訳の金成男氏は6月5日無事帰国されました。

大阪陳式太極拳研究会が毎年招聘していた陳正雷大師は陳氏太極拳の正統伝人であり、昨年9月にNHKハイビジョン特集で<水野美紀 中国太極拳の神髄を求めて>という番組で紹介され、NHKのまる得マガジンという番組でも、陳正雷大師がつくられた陳式18式が紹介されました。

まる得マガジンテキストは【体と心を開放! 水野美紀と本格太極拳】という題名で研究会主宰の住石が実技指導も行なっていますので、興味のある方は是非そちらもご覧下さい。現在でも書店で販売されています。

大阪陳式太極拳研究会
(大阪太極拳協会内)
主宰 住石寿美恵



オープニング(神戸華僑総会舞獅隊)

Culture
&
Communication

株式会社
国際印刷出版研究所

〒551-0002 大阪市大正区三軒家東三丁目十一番三十四号
TEL 06(6555)6854
FAX 06(6555)0288

友好都市と 古き水郷の郷・同里を訪問

浦島太郎のように 訪中してたまげ

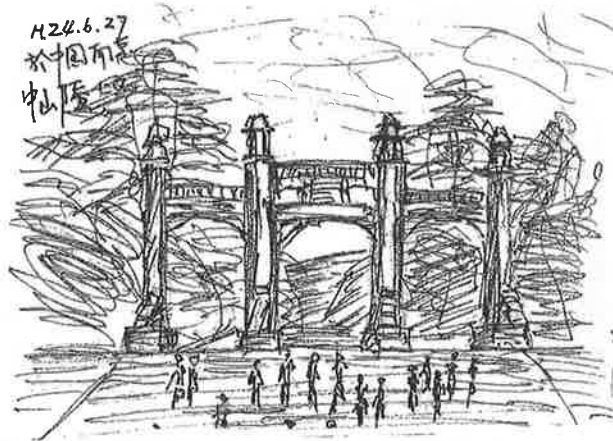
摂津市国際交流協会が友好都市である安徽省バンブー市を訪問する機会があり、日中友好協会大阪三島支部の摂津代表として江原均事務局長と共に参加しました。一行は21名、6月26日より30日まで4泊5日の日程でした。関西空港までは摂津市が用意したバスに乗り、中国のCA164便で上海着10:30。昼食の後、高速鉄道でバンブー市に向かいました。約2時間で到着しました。

驚いたのは駅の広さと列車の変わりようです。当時は議員をしていた関係で摂津市の代表団の一員として1991年と1992年の2回訪問しましたが、上海からバンブーまで7時間近くかかったと思います。空港も駅も日本と変わりませんでした。20年経った今回はびっくりすることばかりでした。まさに冒頭の川柳に描いた心境でした。野球場のように広い駅構内には人があふれ、飲食する場所も長距離を歩かねばなりません。列車も日本の新幹線のグリーン車並の豪華さでゆったりしていて快適でした。バンブー南駅も立派でした。そこから市役所前を通り、竜子湖公園近くにある錦江大酒店までバスで20分余の道路も御堂筋並の幅を持つ立派なものでした。夕食の歓迎宴はホテル前にある大レストランでしたが道路を渡るのに信号もなく、酔っばらえば大変危険と思いました。

有り難いと思ったのは20年前からの古い友人である光相磐（画家）苗務寅（作家）王偉（元外事弁公室主任）の3人を招いて同席していただいたことです。文通していた老朋友と顔を合わせて喜びに浸りました。

光と陰 大中国も悩ましい

翌日はホテルで表敬訪問団と市代表との対談が行われました。国際交流協会会長らと共に筆者も日中友好協会の代表として紹介されました。市長が公務のため同市の副市長が歓迎の挨拶をされ、外事弁公室・人民対外友好協会主任らが同席されました。紀元前の中国戦国時代、後に漢国王となる劉邦と四面楚歌の言葉を残した悲運の武将・項羽が激突した場所がバンブー市域であることや、上海・南京・北京



を結ぶ交通の要所にあり、約7年間で倍の成長を遂げた同市の発展ぶりを数字を並べ資料も見ずに説明される副市長の博識に驚かされました。

まぶしいような同市の発展ぶりでしたが、日本がそうであったように光と陰が存在することも事実であると感じました。市の総面積は約6千平方キロ、人口は約350万人。中心部の市街地だけでも15キロ×10キロと聞きましたが、水道はともかくとして、公共下水道はほとんどが未着手のようです。若者の月給は約2.5千元、日本円にして3~4万円くらいでしょうか。服装は日本とほとんど一緒であり、ケータイ電話やデジカメ、スクーターのようなバイクを乗りこなしています。マナーも良く、親切で街は本当に奇麗でしたが、交通網の整備もまだまだのようです。大学は市内に11校あり、その学生も数万人いるようです。医者や技術者、陸・海・空軍の士官





中国蘇州同里の水郷で H24.6.29 写生す

まで教育されていると聞きました。百貨店や外国系のスーパーも見学し買い物を経験しましたが、ホテルの浴室設備や高速道路パーキングのトイレなど、日本のバスツアーとは見劣りのする部分があったのも事実です。衣食に要する費用がたいへん安いのでやっつけられるようですが、多くのマンションにベランダが無く、外壁にクーラーの室外機を取り付けている姿を見て追いつけ、追い越せの課題はこれからと感じさせられました。

忘れ難い 古都南京と水の里

南京市では江蘇省人民対外友好協会にたいへんお世話になり、副会長・徐龍さんが立派なレストランで歓迎宴を開いて下さいました。南京では明孝陵や中山陵も見学しましたが、すずかけの街路樹に蒋介石ゆかりの総督府、明時代の城壁が日本の古都のよ

うであり、感じ入りました。旅の最後に立ち寄った蘇州の拙政園、寒山寺、水郷の街・同里と共に忘れ難い思い出を得ることになりました。

(大阪三島日中・小林貞夫)

開催成功！

日中国交正常化40周年記念上映会

7月22日(日)、阿倍野区民センターにおいて「日中国交正常化40周年記念上映会」が開催された。

冒頭司会が「今、日中友好に逆風が吹く事態となっておりますが、各界各層を挙げた国民運動としての日中友好運動の本旨に立ち返り、逆風をはねのけ子孫孫の日中友好を実現しましょう。本日の上映会はささやかながらその一歩となればと願っております」と開会の口火を切った。

最初の田中潤治大阪府日中友好協会副会長の挨拶では「40年前、田中角栄さんがサインをしたこれ(日中共同声明)、今日は資料としてちゃんと配っております。この通りです」と指摘され、日中友好の原点が「日中共同声明」にあることをあらためて明らかにされた。

上映に先立つ中国総領事館の劉馳氏の講演「震災復興と日中友好」では、四川大地震発災にあたり日

大阪府日中友好協会提携 宿泊保養施設のお知らせ

この度、大阪府日中友好協会と大山観光産業株式会社との間で、宿泊施設「志摩別邸 ひろはま荘」の利用について、特別提携料金で利用提供することで契約を交わしました。

- *ご予約時に、大阪府日中友好協会の会員である旨、お伝え願います。
- *利用日の1週間前からのキャンセルには費用が発生します。
- *詳細は同封チラシ参照、または下記にお問い合わせ下さい。

ひろはま荘 住所：〒517-0703 三重県志摩市志摩町和具1593
TEL：0599-85-0525(代) FAX：0599-85-6191

●お申込み・問合せ先：大山株式会社 大阪堂島本店

TEL：06-6364-2111(代) FAX：06-6364-6111



上映会場

本の救援隊が真っ先に駆け付けてくれたことが写真とともに紹介され感謝の気持ちを述べられた。

中国では、震災後2年でほぼ復興を成し遂げているが、その迅速な復興の秘訣が「対口支援」にあることが紹介された。「対口支援」は元来、中国中西部の未発達地域支援のために行われてきている伝統的な政策だが、温家宝首相の提唱により震災復興に応用された。これは、ある被災地方自治体を上級の地方自治体が対になって復興支援するシステムとのこと。被災地の県（日本の市町村）をパートナーとなった省（日本の都道府県）が支援するという形で、「北川県—山東省、汶川県—広東省」など具体例がいくつも紹介された。

また、「東日本大震災救援を中国はサポートしました」「震災復興は中日共通の課題であり、互いに助け合い中日友好の契機になります」と話しをされた。そして最後に、唐家璇中日友好協会会長の言葉、「同舟共済」（同じ舟に乗る者同士は助け合わねばならない）、「大愛無疆」（大きな愛に国境は無い）、「中日友好の歴史的流れは、誰にも阻むことはできない。」を紹介され講演を締めくくられた。

上映作品「新家」は臥竜パンダ保護施設が震災で壊滅し、救出されたパンダは疎開を余儀なくされた。疎開先で成長する赤ちゃんパンダの愛らしいしぐさや、野生回帰を目指し人間との接触を断つため「人パンダ」（パンダに扮した飼育員）の奮闘など会場には笑顔が広がった。

また「家園」は、震災で壊滅した村を「エコ・低炭素・有機農法」を基礎とする全く新たな「楽和家園」として生まれ変わり世界の注目を集める山村の挑戦を描いた作品だ。

参加者からは「最近の報道を見ていると、中国は共産主義やし怖いなと思っていましたが、お話を聞いて映画をみて全くそんなことは無いと思いました。今日は来てよかったです」「今度、日本語教師として中国に行ってきます。報道ではいろいろ言われますが、中国の実際のところを見てきてまたお話したいと思います」等々の感想があった。（報告・伊関 要）

日中友好交流都市卓球交歓大会に 大阪から4チームが参加

「友誼第一」をモットーにした日中友好交流都市卓球交歓大会は、8月17日～19日、北京で盛大に開催された。

国交正常化40周年記念事業であり、全国から83団体が参加し、大阪府からは、自治体、大阪卓球協会の努力で大阪市3人（友好都市：上海市）、八尾市6人（上海市嘉定区）、寝屋川市5人（上海市蘆湾区）、守口市4人（広東省中山市）の4市が参加した。

それぞれ、男女中学生2名の選手と、友好都市の男女中学生2名が合体して1チームとなり、熱戦を繰り広げた。八尾市のチームは交歓卓球大会後、友好都市である上海市嘉定区を友好訪問した。

活発な体験談がとびかった 40周年記念講演会

中日国交正常化40周年記念講演会は、当協会と大阪華僑協会が共催して、8月25日、TKP大阪本町ビジネスセンターで開催され約80名が参加した。

基調講演は、長年日中友好に携わってこられた、(社)日中協会理事長の白西紳一郎氏が、40年前の国交正常化前後のことを、体験を通して生き生きと語られた。そのあと、パネリストの大阪華僑総会の金



会場の様子 司会是本郷成保美さん

聳名誉会長、当協会の大藪二郎副理事長をまじえ、当時のことや今後の日中友好の進め方などについて語り合った。また会場からも、当時のいろいろな体験や提言がとび出すなど、活発な会となった。

女性委員会・関西ブロック協議会共催で 「シルクロードの旅」を実施

日中国交正常化40周年を記念し、大阪府日中友好協会女性委員会と日中友好協会関西ブロック協議会が企画した「シルクロードの旅」に8月19日出発しました。

京都府日中友好協会副会長の仁賀武さんを団長に、大阪府日中友好協会女性委員会委員長の川上和さんと京都府宮津市日中友好協会理事長の志田忠男さんを副団長、大阪府日中友好協会理事の峯留春さんを秘書長とし、19名が参加しました(うち大阪府から9名)。

滞在中は駐大阪中国総領事館のコンドス・ユスフ副総領事のご好意により、新疆人民対外友好協会や新疆婦女連合会と交流し、両国の友好を確かめ合うことができました。

また、蘇巴什古城、クズルガハ千仏洞など名所旧跡も訪れ、あらためて中国の広さと歴史の古さを実

訃報

- 越本 勲氏** 前評議員
2月8日逝去 享年86歳
- 富田 和子氏** 前参与
5月31日逝去 享年84歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

感しました。

7泊8日に及ぶ訪中に参加された方々本当にお疲れさまでした。(事務局・柴田雅代)



蘇巴什古城にて記念撮影

今後の行事予定

■神戸・京都・大阪大学 3大学

中国蘇州シンポジウム 9月6日

池田泉州HDが主催し、当協会も後援する、上記3大学と学術交流協定を締結する中国の主要5大学の著名研究者による、「グリーン・イノベーション」、「グローバル人材育成に向けた国際化戦略」について講演会とディスカッションが行われる。当協会からは谷井昭雄会長が来賓として参加、挨拶をする。谷井会長は、9月7日は上海人民対外友好協会を訪問される。

■国交正常化40周年記念植樹式

9月10日

9月10日 午後1時半より、大阪城公園内 日中友好記念のこま犬前(大阪城公園京橋口)にて、主催・大阪華僑総会、当協会が共催する「友好と理解の樹を守り育てる」ために記念植樹が行われる。「こま犬」は、1984年に中国政府より大阪市に寄贈され、日中友好の願いを込めて、発見された場所である大阪城公園内に設置されたものです。

■出会いと絆のコンサート

9月21日(金) 18:30開演 いずみホールにて

■第4回「八卦杯」

太極柔力球日本選手権大会

10月14日(日) 9:30より 堺市家原大池体育館にて

■中国 児童画展

10月22日(月)～25日(木) 大阪国際交流センターにて

■秋季日中親善ゴルフ大会

10月23日(火) 9:00より
アートレイクゴルフ倶楽部にて

■大阪府日中 中国語スピーチコンテスト

10月28日(日) 13:00～17:00
大阪スカウト会館3F

■大阪府日中 40周年記念 会員の集い

11月25日(日) 15:30～18:30
太閤園にて

吹田市日中

留学生との 交流の促進と拡大

5月26日(土)、吹田市日中友好協会の定期総会・懇親会が開催され、日中国交正常化40周年を記念する多彩な事業計画が発表されました。会場には北京・吹田友人之家の皆さんから贈られた錦の旗が披露され、ひととき注目を集めました。

祝国交正常四十年
愿中日友好万年長

この錦旗には前教育室長劉占山先生の揮毫が力強く、色鮮やかに刺繍されています。

北京・吹田友人之家は、留学を修め帰国した中国人留学生が留学中に培った交流の絆を帰国後も絶やさないと願いを込めて、昨年10月に発足したもので、今回贈られた旗は帰国された皆さんからお世話になったお礼にと届いた記念すべき品です。

この席で、吹田日中の最大の年間行事の一つである「中国人留学生との研修交流の集い」について、本年も西日本の大学に留学する百余名の留学生との一泊研修交流会を昨年と同様に剥いたし自然体験交



北京・吹田友人之家から贈られた錦旗を
囲んで

流センターで開催すること、さらに今回は記念行事として特別計画も組み期待に備えていることが発表されました。留学生との交流を深め、これ等留学生が帰国後も吹田を第二の故郷と思ってくれることを目指すものです。

当日の総会で、新たに青年部が上杉邦雄理事を部長に総勢7名でスタートしました。中国留学生の皆さんとは一番年齢が近い人達であり、今後の留学生との交流の推進力として活躍してくれるものと期待されます。

懇親会終了の後、来賓として参加した大阪大学及び関西大学の中国人留学生学友会幹事の皆さん7名が、高津会長はじめ役員と懇談し、彼らが中心となって友人之家吹田本部の立ち上げに動くこと等、記念の年にふさわしい活動について話し合いました。

(副会長・二宮 信)

堺
日
中

国際交流は 異文化理解から

○ 堺日中友好協会の本年度の定例総会は、6月26日にリーガロイヤルホテル堺で開催しました。

終了後は恒例の懇親パーティーを堺姉妹友好都市協議会(堺日中友好協会、堺・パークレー協会、堺ウェリントン協会)の主催で開催し、中国総領事館からは、王磊領事と胡元もと領事アタッシュェをお迎えしました。

なお、総会では、堺市教育庁に就任したため当協会監事を辞任した木村正明氏の後任に渡辺進新治氏が選任されました。



懇親パーティー

○ 当協会の中国語教室は、1991年に開設し、近年は年4期(春・夏・秋・冬)一期10回コースで行

う定例事業となっています。

一昨年に堺市立国際交流プラザが設置されて以降、会場を当プラザ内に移したのを機に「国際交流は異文化理解から」との趣旨で「中国文化講座・中国語編」として開講し、専任の中国人講師・柳秀花先生の指導で、每期必ず受講される会員もおられる人気講座となっています。

当講座では、中国語の学習は当然ですが、併せて中国文化理解のため、中国領事館や日中友好協会主催行事等を紹介し、積極的参加を勧誘しています。

夏期コースは9月初旬に終了予定ですが、9月に難波宮跡で開催される中秋明月祭には、毎年講師と夏期コースの受講生が参加し、中国文化に接する好機となっています。（会長・曾我部篤爾）

枚方市日中

総会を終え、 新しい年度の船出！

4月27日（金）、府日中戸毛敏美副会長を迎え、竹内脩枚方市長からメッセージをいただき、枚方市民会館にて、本年度の総会を開催した。2011年度事業報告、決算報告が承認され、2012年度の事業方針、予算案の審議が行われ、賛成多数で無事承認された。

◎2012年度の主な事業計画

- ① 全国日中友好協会、大阪府日中友好協会が実施する日中国交正常化「40周年記念」事業に積極的に協力する。
- ② 「第39次訪中団」を派遣するべく取り組みを進める。
- ③ 第13回「ひらかた多文化フェスティバル」に参

加（舞台出演・模擬店出店）する。

- ④ 中国からの帰国者と交流する事業を促進する。
- ⑤ 市内の大学に在籍する中国の留学生との交流を深める。
- ⑥ 会員獲得運動を展開し、本協会の活性化に努める。
- ⑦ 中国語を学ぶ会の「中国の家庭料理を楽しむ会」に協賛する。
- ⑧ 会員有志による親睦ゴルフコンペに続き、他の親睦クラブ・仲間の会の結成に努める。
- ⑨ 中国語を学ぶ会等々の諸団体やサークルとの交流を深めて、枚方市民が直接肌で接し得る友好親善事業を企画したり、協賛・参加する。
- ⑩ 中国友好訪日団の歓迎事業等、参加・実施する。
- ⑪ その他、本協会の趣旨に沿う事業を企画し、実施する。

◎6月26日（火）、関西外国語大学中宮キャンパス・谷本記念講堂にて、関西外大孔子学院主催で、日中国交正常化40周年記念事業として、上海戯劇学院を招き、京劇公演～「粉墨中国」～が開催された。本協会会員にも孔子学院からの手紙や電話等でも紹介し、多数の会員及びそのご家族・友人が参加した。

◎7月6日（金）、2010年の夏「上海万博」で訪中した枚方日中「第38次訪中団」の同窓会を、市内中華料理店「天安門」天水苑で開催した。

友好都市の上海市長寧区を共に表敬訪問した「枚方市行政考察団」（団長・竹内枚方市長）の方々にも参加していただき、なごやかな会となった。最後に、「河内音頭」を全員で踊り、より一層、会は盛り上がり、過ぎ去りし、訪中時のよもやま話に花が咲き、楽しい同窓会の幕を閉じた。

（理事長・奥野 稔）



河内音頭を全員で

創立30周年記念事業の 第1弾を終了

—中国モンゴル民族の演技に
喝采を浴びる—

当協会は、去る5月18日創立30周年を迎えました。この佳節に当たり記念事業を、今年の日中国交正常化40周年並びに常州市・高槻市友好都市提携25周年と一緒に、当協会と(公財)高槻市都市交流協会が共催。高槻市、中国領事館並びに府日中の後援を得て、6月9日(土)高槻現代劇場に中国領事館から殷領事、府日中協会から日根野及び大藪副理事長、府下日中協会代表者の来賓のほか、都市交及び当協会会員、一般市民ら132人を迎えて開催した。冒頭開会挨拶に立った柿原副会長は、本日も列席いただいた皆さんと、過去30年間の先人役員と会員、関係各位の不断の友好的なご尽力に謝意を表明。またこの度領事館から多数の中国に関する図書をいただいたことにお礼を述べた。

記念事業は、まず12時30分から「日中友好茶会」と称して日頃から茶を点でている福山理事長の裏千家・桜井宗喜先生と社中の皆さんが、来場者に日本茶を振る舞った。お茶でゆったりされた参加者に、中国モンゴル民族による特有の楽器で演奏や踊り、歌を1時間にわたり披露した。最後は出演者と参加



モンゴル芸術団員と踊る日根野副理事、豊中日中田中会長ら

者が舞台上で踊りを共演する睦まじいシーンもあった。同時に会場では、30年の歩みを約40点の写真と年表を展示し紹介した。

この後会場を換えた記念式典では、午後3時30分から金谷副理事長の司会で濱田会長の挨拶に始まり、笹井30周年記念事業実行委員長が記念事業報告と今後の事業計画を発表した。次いで挙行した表彰式では、10年以上協会の役員等を歴任した功労者奥本前市長・会長ら11人と、20年以上の永年会員である3団体と12人に感謝状と記念品を贈った。終わって、来賓として中国領事館・殷達奇領事、府日中・日根野文三副理事長、府下日中を代表して豊中市日中の田中会長から祝辞をいただいた。最後は、祝賀パーティーを開催し来賓、協会役員・会員ら61人が共に慶事を和やかに、かつ盛大に祝い午後6時福山理事長の挨拶で閉宴した。(理事・笹井 宏)

関空～上海・蘇州～関空



倉田 薫 新会長

昨年11月、私は池田市長として池田市の姉妹都市「蘇州市」を訪問いたしました。姉妹都市締結30周年を記念して池田市民団が蘇州市を訪問中でしたので市民団と合流し蘇州市長と面談するためです。

事情があって、中国滞在18時間、蘇州市滞在12時間という弾丸ツアーでした。「関西空港がいかに便利

な空港であるかを身をもって実践する弾丸ツアー」でした。

既にご承知の事情がありますが、その事情を上手く利用して「関西空港の利便性、特に中国と大阪の関係強化」をPRするのが狙いでしたが、残念ながら事前の準備不足のため同行してくれたマスコミは1社だけでした。ただ、関空が便利な空港で中国に向かっての表玄関としての役割を十分果たしていることについては改めて体験、証明できたものと思っています。

7月11日から今度は池田市日中友好協会の会長として4泊5日で同じく上海、蘇州を訪問して参りました。日中友好協会の会長としての訪問ではあっても古い友人がたくさん出迎えて歓迎してくれました。友情や歓迎については変わらないものの、市長職を離れて民間人としての訪問でしたので今までとは違った見方、とらえ方ができたものと思っています。

日本の隣国、古き友人としての中国に対して、「安い労働力を求めて中国進出を行ってきた日本企業」そして「それを歓迎、誘致してきた中国政府」その関係が今少々崩れかかって来ているのはご承知の通りです。「安い労働力」を求める日本企業は、いまやベトナム、インドネシア等の他国へと移動を開始しているようですし。中国の国内事情もいささか変化してきているように感じました。

お隣の国、中国。日本にとっての古い友人の国中国と、いまこそ「本音」の付き合いを進めて今なけ

ればならないと感じました。

せっかく関西空港という中国に向かっての表玄関を有しているこの関西、大阪から日中の新しい時代を展望したいろいろな仕掛けが必要な時期と心得ています。

6月の末に池田市日中友好協会の会長に就任いたしました私としては先人のご指導を仰ぎながら新しい友情の輪作りにいささかなりともお手伝いできれば幸いと思っています。今後ともよろしく願います。
(会長・倉田 薫)



日中の平和と友好を願う ひたむきな女流画家の活動

—井口和子さんの 「友情の種アートプロジェクト」—

藤井寺市在住の井口和子(たかこ)さんは、画家として長年、中国で活動を続けてこれ、2002年上海で日中国交正常化30周年記念として開催された個展以来、広州、南京、北京などで素晴らしい絵画の個展を重ねながら中国の人々との友情の輪を広げておられる。

『私にとって、中国の魅力は、素晴らしい景色、長い歴史と伝統、変わりゆく活力、それ以上に出会った人々の優しさと暖かさなのです。私を中国に向かわせるのは親しみをこめた人々の笑顔と精一杯生きる力なのです。私は、絵を通して、人のぬくもりや本当の幸せを考え表現したいと思います』と、彼女は語る。

その活動の一つ、「友情の種アートプロジェクト」は未来を背負う子ども達に、友情の素晴らしさや喜びをしっかりと育ててほしいという願いで2005年から始めた美術教育プロジェクトで、中国と日本の子ども達が、国境や海を越えて、力を合わせて、心を込めて、一枚の絵を完成させるのである。具体的には、日本の小学校で、子ども達は、一人ひとりの自画像と、グループで夢や希望を託した「友情の種」のデザインを作成し、井口先生がそれらを持って中国の子ども達に届ける。向こうの学校では、届けられた日本の子ども達の自画像と友情の種を大きな1.5×10メートルもある紙の上に配置し、そのまわりに、自分達の思いを込めた絵を描いて完成させていくのである。

希望あふれる子ども達の自由な発想と豊かな感性で、どんな作品が生まれるか、誰もが楽しみと、期待をふくらませて待っています。中国の子ども達と一緒に出来上がった作品を喜びあい、そのあと、合同作品を井口先生が日本に持ち帰って、日本の子ども達に見せる朱鷺の子どもらの輝くまなざしと歓声。

日中両国の子ども達の懸け橋として、心を砕き、労苦を惜しまずに、友情の種を大切に育てておられる。その根底にある彼女の思いは、『未来に生きる子ども達に、友好の種を残したいと願っています。たとえそれがどんなに小さくても、無いよりどんなに素晴らしいでしょう。行動で友好を示していかなければなりません。それがどんなに些細なことでも、それを積み上げる事が、今の私たちのすべきことだと思っています。』

こんな温かい日中友好活動が末永く続き、深まることを心から願い、これからも応援していきたいと思う。
(花岡信子)



地域新聞にも紹介されました

ご講演者推薦の お願いと活動報告

今年度も講演会の開催を予定しています。昨年度は、①中国仏教の現状②万葉仮名の成立③現代に生きる漢詩④倉石武四郎⑤日中友好の原点は鎌と鎌⑥中国経済の現況とこれからの交流、のテーマで行い、⑤は阪南市日中の山本義輝氏、⑥は堺日中の林昭嘉氏がお引き受けくださいました。

今年度も熊取町図書館において、2013年6月8日(土)と9月14日(土)13時30分から15時までの予定の2回を大阪府下の地区協会の方にお願ひしたいと思いますので、自薦、他薦を問わずご推薦いただけます様お願い申し上げます。ご推薦いただく場合には、講演者名、テーマ、簡単な講演要旨、ご連絡先をお知らせいただければ幸いです。応募先は〒590-0407 泉南郡熊取町青葉台2-10-2 武内孝之宛てです。応募締め切りは9月末日とさせていただきます。

さて、前号以降の活動ですが、4月8日(日)好天に恵まれたお花見。三輪神社を起点に山辺の道を進み巻向駅まで散策しました。

5月12日(土)には、前記⑤のように阪南市日中役員の山本義輝氏をお迎えし、19歳の秋「私の最大の社会貢献は農業機械化の仕事をする事」と決意さ



米寿迎えた鈴木さん(左端)と『中国近世通俗文学研究』を上梓した林さん(右端)をお祝いする会

れ、学問に励み、機械の開発とその普及、指導をなさった60年余の実践の豊かな道程を伺いました。

6月9日(土)には、堺日中名誉会長、大阪府日中理事長の林昭嘉氏をお迎えし、友好協会役員と経営者としての両面からの視点で中国経済の現況とこれからの交流についてお話しいただきました。

7月8日(日)第17回総会開催。府日中新事務局長藤井様にご挨拶をいただき、名誉会員に七里弘初代会長を、新理事に竹田久美さんを、会計年度の改正等を決定。記念講演は、京都文教短期大学専任講師である林雅清本会事務局次長に「元曲～中国古代の文学から芝居へ～」と題し、10年の研究成果を生のお話も披露しながら発表いただく。

懇親会では米寿を迎えた鈴木修さんと林さんの出版お祝いも兼ねて行いました。

(事務局長・有岡トシエ)

「魯迅と日本人展」の 開会式典に出席して

去る5月15日～25日まで東京中国文化センターで開催された「魯迅と日本人展」の開会式典に、豊中日中友好協会として、田中会長と役員3名が出席しました。今回展覧は日中国交正常化40周年を記念して、魯迅が7年間の留学中そして、文学者の第一人者になるために多くの日本の友人たちの厚情に支えられ、励まされ、一生文学に捧げることを固く決心する動機をつくって頂いた日本人の紹介です。

その日本人の一人に「日本初のロボット・学天則」の生みの親の「西村真琴」が紹介されていました。



「魯迅と日本人展」開会式

この紹介内容は、「西村真琴は、日本の生物学者であり、1932年前後に上海で滞在した。「一・二八」戦争の時に、閘北三義塚廢墟から受傷した鳩を救い、それを「三義」と名づけた。さらにその鳩を日本に持ち帰って飼育した。鳩が死んでから塔を造って骨を埋めた。かつ失った悲しみを「西東 国こそ

異へ 小鳩らは親善(したしみ) あえり一つ巢箱に」
と言う和歌一首にして鳩の絵図を添えて中国の魯迅
に贈ったとなっていました。

魯迅は感激し、1933年6月に「三義塚に題す」を
詠みこの不朽の名詩が届きました。日中国交正常化
30周年の年に豊中市中央公民館前庭に、碑名「三義

塚」と魯迅から送られた名詩の「三義等に題す」の
石碑を建立しました。

本年12月16日が建立10周年になりますので、「西
村真琴・魯迅展」を12月16日～19日まで豊中市中央
公民館で開催をしますので、ご支援ご協力をよろし
くお願いします。(副会長・清水正弘)

松原市目録

民間交流としての 位置づけ

会員の皆様に残暑お見舞い申し上げます。

暑い夏の節電対策や他生活節約など皆様方も色々
と気を揉んでいらっしゃる事と察します。

さて、今年は日中国交正常化40周年の節目を迎え、
色々なイベントが開催されています、会員はじめ皆様には
この40年をどのように捉えていらっしゃるのか？ 私にとっ
て、この40年を巷で感じるなら見る物・買う物、衣食住に
中国製がより多く目に止まり結構生活面にも多く親しみ
好感がわきます。

他方、昨今の尖閣領土問題を含めて冷ややかな距離を
おいて幾度となく領土侵犯が行われております、中国は
40年前と比べて今では経済大国となり、平和を唱いなが
ら軍備拡大と領土侵犯がどれほど必要なのかよく分かり
ません。

しかも、一部の協会には現役の政治家で会長や役員を
任じ、これからの政治家による政治主導の為の民間交流
に期待が薄れます、個々の交流から成長する木の枝に葉
を付ける事が難しい気が致します、私は民間交流から両
国間の架け橋をつくる日中友好と言う組織力で交流を
深めて行きたいと考えます。



市民活動サポートサロンにて

そして、行政や企業は民間交流に賛同し、ご支援・
ご協力を願う言わば後ろ盾の存在でその寄与には大き
きな力強い存在だとこれからも期待を大きく願って
やみません。

松原市では、市民協働の一環として行政と市民活
動団体(市民活動・ボランティア)との橋渡しとして
市民活動サポートサロンが平成22年に発足致しまし
た。この市民活動団体は現在91団体で、支援・協力
などをこの登録団体と協働していく事が目的です。

当協会もこのサポートサロンに本年5月に登録
し、地域市民団体と情報交換や協力を連携して、日
中友好の趣旨を民間交流として広報活動を通じ実践
して参ります。感謝 (会長・牛浜龍男)

八尾市目録

平成24年度定時総会を 開催

—上海市嘉定区友好訪問団 歓迎夕食会にて歓談—

5月28日、平成24年度定時総会が「ちゅうか彩園」
に於いて開催された。

総会では、平成23年度事業報告並びに収支決算報
告、平成24年度事業計画案並びに収支予算案につき
審議され、原案通り満場一致で承認された。

また、本年は2年に一度の任期満了に伴う役員改
選の年であり、審議の結果、八尾市議会議長の交代
に伴う名誉顧問の変更など一部変更はありましたが、
田中順治会長をはじめ副会長等主な役員の方々の
再任が承認された。

総会後の懇親会は、八尾市との友好都市である上
海市嘉定区との友好をさらに深めるべく、王浙団長
をはじめ6名の嘉定区友好訪問団をお招きした「歓
迎夕食会」を兼ねて開催された。

田中誠太八尾市長、大松桂右八尾市議会議員、大
阪府日中友好協会の林理事長、藤井事務局長をはじ
め多数のご来賓に出席いただき、終始和やかな雰
囲気のなかで上海市嘉定区の方々と有意義な交流

がおこなわれた。

今後の活動としては、日中国交正常化40周年を記念して、本年8月に北京市に於いて開催される「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」へ八尾市が参加されることとなり、その選手団の団長として当協会の岡田健治氏が選出され、両国の相互交流の発展促進、並びに、21世紀を担う青少年の友好交流にご尽力いただくこととなりました。



田中会長のあいさつ

大阪三島日中 第2回総会と「中国紹興酒 と中国茶を楽しむ会」が 開催されました

第2回総会と「中国紹興酒と中国茶を楽しむ会」が開催されました

5月15日茨木市福祉文化会館で、第2回総会が開催され、昨年5月に設立されてから一年間の活動報告と向こう一年間の活動方針が承認されました。

総会には、木本安平茨木市長、森みどり府議、松本利明府議、杉本武府議、大谷信盛衆議員事務所、藤村修衆議員(官房長官)事務所、大藪府日中常務理事など多くの来賓が出席されました。来賓祝辞では「三島日中友好協会の益々の発展と政府間での交流が厳しい中、民間交流が極めて重要で必要である」旨を強く指摘戴き、三島日中の活動の深化を会員一同改めて深く認識しました。議事は、小林貞夫副会長を議長に選出し、江原事務局長から、昨年設立以来「中国餃子を作り楽しむ会」「中国茶を楽しむ会」など茨木市、摂津市で市民を対象に、中国を知ってもらうことを中心に、楽しい友好事業を行い、参加市民から継続の声が上がるなど大きな成果を挙げました。

今年度は友好都市である安徽省安慶市、蚌埠市へ市民訪問団派遣や茨木市、摂津市在住の中国人留学生や在住者との交流や、中国語講座、太極拳講座などの開催にチャレンジしていくことを確認。

また、会員拡大やNPO「草の根市民活動」に連帯して支援していくこと。両市に在住、在学する中国人の方々と交流を深めること。9月中旬の「明月祭」への参加や府日中の活動への参加、北摂地域の各市の日中友好協会との共同行動への参画など、全ての議案を満場一致で確認されました。

第二部として、総会終了後中国から持ち帰った「紹興酒」や「白酒」、ジャスミン茶やウーロン茶、龍井茶などを楽しみ、中国のお菓子やオードブルを肴に、交流を深めました。また、摂津市在住の「孫雪芳」さんの「朗読」が披露され、日本語と朗読の素晴らしさを実感するなど、20名の会員市民の参加で大いに盛り上がり、和気藹々の懇親となりました。

摂津市友好交流都市「安徽省蚌埠市」と江蘇省南京市を訪問

大阪三島日中友好協会は、6月26日～30日、小林貞夫副会長(摂津代表)を団長に長尾千里文化担当理事、江原均事務局長や摂津市民5名が、摂津市国際交流協会主催の訪中団(22名)に参加し、摂津市の友好交流都市である安徽省蚌埠市を訪問。徐桂霞蚌埠市対外友好協会副会長をはじめ、関係者の熱烈歓迎を受けました。

昨年市政100周年を迎えた「蚌埠市」は、新幹線の新駅が開設され、市役所の新設移転や経済開発区の開発、大学城の開設など大きく変貌をとげ、躍進中国の一翼を担う人口100万人の都市となっています。

26日の歓迎宴では、小林副会長の20年来の友人3名

も招待され、久方ぶりの親交を暖め、徐桂霞副会長へ記念品を贈呈。徐桂霞副会長から「大阪三島日中友好協会の初訪問を熱烈に歓迎する」との歓迎挨拶があり、今後、協会との交流を進



徐桂霞副会長(左)

めていくことを確認し、懇親を深めました。27日には



徐龍副会長(右)

は市政府を表敬訪問。史跡旧跡や中国企業等を見学しました。

6月27日には、江蘇省南京市にて「江蘇省人民対外友好協会」を表敬訪問し、

徐龍副会長主催の歓迎宴に出席。徐龍副会長から「江蘇省は大阪府と30年以上の友好交流を行っており、皆さんの江蘇省南京訪問を熱烈歓迎する」との挨拶を皮切りに、白酒による乾杯と南京料理に舌鼓をうちながら、和やかに懇親を深めました。

28日には中国建国の父「孫中山」先生の墓や、世界文化遺産の「明孝陵」を見学。29日、30日は水郷の街「同里」を見学。江南地域の豊かな水郷地帯を散策し、30日に全員無事に帰国しました。

参加者からは、是非次年度も計画をとの声が上がリ、訪問団派遣は大きな成果を得ました。

(事務局長・江原 均)

岸和田市日中

第26回定期総会を開催 新会長を選出

第26回定期総会が4月21日(土)14時より福祉センター別館において、会員出席者19名により開催された。

開会挨拶、来賓の大阪府日中友好協会林理事長、中国駐大阪総領事館宗領事アタッシュの紹介挨拶の後、議事に移り2011年度活動報告で、昨年は協会設立25周年記念行事「ヤン・チェン心の絆コンサート」を中心として取り組んだことの報告があり、次に会計、監査報告が各担当よりなされ、それぞれ異議なく承認された。

役員の変更では、植田前会長の辞任により空席になっていた会長に中村良明相談役を選出、その他の役員についても原案通り承認された。

今総会では、特に規約の改定について年会費を半額の6,000円とする案及び準会員制度を廃止する案が提案され、いずれも異議無く承認可決された。財政的には厳しくなるが、会費を半減することで入会の

条件が緩和されるので、少しでも会員が増えることを望みたいものです。

引き続き2012年度活動方針と予算案が提案され、いずれも承認可決された。

定期総会の後、場所を隣接する野田町会館に移して恒例の懇親会を行ない、挨拶・乾杯の後、オードブルを囲み、カラオケを交えながら歓談するいつものながらのなごやかなひと時を過ごして17時に終了した。

岸和田市民フェスティバルに出店

5月3日(祝・木)、岸和田市民フェスティバルが中央公園において開催され、岸和田市日中友好協会は昨年と同様に「うどん店」を出店した。前日の準備作業では雨模様で気がもめたが、当日は少し薄日もさし、人出も昨年より多かったようでした。

うどんを一杯200円で販売、去年と同じ300杯分の食材を仕入れ完売した。

テント内の側面に設けたパネルには、昨年11月に開催したヤン・チェン「心の絆」コンサートのステージ写真を展示し、岸和田日中の活動の一端を紹介した。

前日、当日の両日にわたり準備・販売・撤収まであわせて十数名の方々の協力をえて、例年の通り出店することができました。こうした地道な活動を続けることが、当協会への一般の関心を深めるために大切と思っております。(副会長・升谷和明)



「中国を知り 知らせる」こと

5月26日に第22回定期総会を開催しました。

今回は役員改選期にあたり、多くの新しい方々に役員に就任していただきました。フレッシュな感覚と行動力を事業展開や協会運営に発揮していただけるものと期待しています。

今回も活動方針の第一に、「中国を知り知らせる」を挙げました。私たちのようなごくフツウの市民による小さな地区協会の役割は、まず自分たち自身が中国のことを、良い面悪い面も含めてよく知り理解

するとともに、それを周囲に正しく知らせることだ
と思うからです。ことに現在のように、メディアによる報道の影響もあって一般市民の反中・嫌中感情が高まっていることを考えると、たとえ微力であっても、さまざまな機会をとらえて周囲の理解を求めていきたいと思っています。

もう一つの柱は、次代を担う青少年たちの相互理解醸成の手助けです。これまでも、何度も中国の小学生を阪南市に招くとともに、こちらからも送ってきました。また春節や中秋節に中国の留学生を招いて、日本の若い人たちとの交流をはかってきました。現在も、中国出身の当協会会員から彼女の中国の母校と阪南市の小学校との交流の提案があり、その実現に向けて努力しているところです。

(会長・明石 啓)

河内長野市日中の 取り組みについて

日中友好40周年の佳節となる本年は昨年から市域在住の中国朋友（綺麗な奥様方）と共に試作を始めた日中合作オリジナルぶたまん「奥河内ぶたまん」の本格デビューに向けた取り組みを計画しています。

具体的には本年10月21日（日）の「高野街道祭り」や11月中旬の産業祭「楽市・きらく市」で販売する計画です。

また、本協会としてこのオリジナルぶたまんを市の産業活性化に向けた事業のひとつである「河内長野ブランド商品認定事業」にも応募し、「奥河内ぶたまん」を市のブランド商品に昇格させる挑戦もします。



中国朋友の皆さんと「ぶたまん」の生地づくり



総会後の懇親会

そして、災害時の備えとして「市域在住中国朋友災害時ホットライン」（災害時の救援ワーク）を市域在住の中国朋友を中心に構築しようと考えています。

更に、晩秋には悠久の歴史を巡る人気の日中バスツアーの開催も致します。

まだまだ組織的にも脆弱な市日中友好協会ですが、目の前の課題に一つ一つ挑戦し、日中友好ならではの魅力ある事業を展開すべく努力いたします。

(会長・大原一郎)

会・員・消・息

四川省の山旅 (平成24年7月11日~22日)

四川省の四姑娘山に
挑戦しました

7月11日、成田から四川省の成都に入り、北京からのメンバーと合流、以後3日間は以前から訪ねたかった世界遺産の九寨溝と黄龍へ。黄

龍もさることながら、山や自然が大好きな私には九寨溝の散策は心に残るものでした。美しく透きとおった湖や池と、その背後の山々を眺めたひとは最高でしたね。ただ有名観光地となった今では仕方ないとはいえ、あまりの人の多さには驚きました。

14日夜遅くに成都のホテルで後発組と合流、今回の山行の最終打合せと食料等共同装備の最終チェック、15名それぞれへの振り分けをしました。

翌朝バジェロ5台に分乗して出発。途中、2008年の四川大地震の震源地域では今なお当時のままの被災現場を見ました。復旧が遅れている谷沿いの悪路や4,000m以上の峠を越え、7時間かけて登山基地の日隆(アバ・チベット族チャン族自治州)の山荘に到着。今回の目的峰・四姑娘山二峰(二姑娘山・5,276m)は、ジャイアントパンダ保護区を含む自然保護区に指定されています。

16日朝ガイドたちとともに曇り空の中をベースキャンプ(3,700m)に向け出発、直登ルートで標高3,500mの稜線に上がるとそこは一面のお花畑、牛やヤクも放牧されていて本当にのどかな風景でした。草原や樹林帯の山腹をひたすら歩いてベースキャンプ到着。

17日は高度順応を兼ねて草原や高山湖を散策、四川料理にも飽きてきたので、手づくりした巻き・いなり・ちらし寿司のおいしかったこと。

天候が思わしくなく、テントに当たる雨音で何度も目覚めるほどでしたが、翌朝には小雨から曇りに変わり、アタックキャンプ(4,400m)へと前進。途中の草原にはエーデルワイス、キンバイソウ、サクラソウな



4800m地点で下山前に

どが、ガレ場の斜面にはブルーポピーが咲いていました。どんよりと曇ったキャンプからはガスのかかった山頂付近は見えないまま、明日の山頂アタックに備えて早々にシュラフに潜っても、高度の関係なかなか眠れません。

19日、アタックの朝は4時に起床。冷たい雨。5時過ぎにヘッドライトを点けて出発。7時前に4,600mあたりのガレ場に達しましたが、それまでに2名が体調不良でアタックキャンプに引き返し、一步一步高度を上げていくものの、雨はやまず気温は下がって、4,800m付近で0℃に。あられも混じりだしました。

天候とメンバーの疲労を考え、隊長、リーダー、チーフガイドが協議して下山を決定、記念写真撮影後直ちに下山を開始、アタックキャンプからベースキャンプまで一気に下りました。

今回の山旅は天候に恵まれず、山頂を踏むことが出来ませんでした。美しい自然に触れることができ、印象深いものになりました。機会があれば再度挑戦と思っていますが、中国の山旅に関心のある方々の参考になれば幸いです。(堺日中副会長・石田哲男)

「会員消息」欄は、個人あるいはグループでの交流や活動を紹介する欄です。情報お寄せください。「私たちの仲間に入りませんか」などのお誘いもOK。

「中秋明月祭 大阪2012」に 大阪府日中ブースを設けます

ご来場のおりには是非お立ち寄りを

第4回「中秋明月祭 大阪2012」が9月15日(土)～16日(日)に史跡 難波宮跡で開催されます。本年は当協会も初めて主催団体の一つとなり、出展ブースも4区画を確保して、「新たな友好へ」のテーマに沿って、新たな人と人との出会い、心の絆が生まれるように、大阪府日中・各地区日中友好協会が一つになって、交流活動紹介、新たな会員獲得への活動を行う予定です。会員用に安価で飲み物なども用意します。休憩所としても気軽にご利用ください。

また、本年は友好都市である上海から上海市人民対外友好協会のご協力を得て、上海少年少女雑技団一行を招いての公演をはじめ、中国各地からの芸術団や超一流料理人5名による実演等も予定されています。(同封のチラシもご覧下さい) 飲食の屋台、物販、中国の観光案内などが、昨年以上の規模で開催されます。皆様お誘い合わせて、どうぞご来場下さい。(入場無料)



上海少年少女雑技団

明月祭メインステージ演目予定

| 2012/9/15 (土) | | | |
|---------------|-----------|-------|---------------|
| タイム | 演目 | タイム | 演目 |
| 9:00 | ヤンコ踊り | 15:00 | |
| 10:00 | 獅子と龍の舞 | | 歌謡曲 |
| | 開幕式 | | カンフと龍舞 |
| | | | 雲南省民族芸術団 |
| | | 16:00 | |
| 11:00 | | | |
| | 山東齊魯団 | | 上海少年少女雑技団 |
| | | 17:00 | |
| 12:00 | | | 歌・楽器演奏 |
| | | | |
| | よさこい踊り | | 中国民族舞 |
| | | 18:00 | |
| 13:00 | フルス演奏・歌合唱 | | ギター ポーカル |
| | 四川省成都市芸術団 | | |
| | | | 太極拳 |
| | | 19:00 | |
| 14:00 | | | ベリーダンス(REI'S) |
| | くまモン体操 | | 中国楽器演奏と歌 |
| | 海南省芸術団 | | 加米拉 |
| | | 20:00 | |

| 2012/9/16 (日) | | | |
|---------------|-----------|-------|-----------|
| タイム | 演目 | タイム | 演目 |
| 9:30 | 獅子と龍の舞 | 15:00 | 中国民族舞 |
| 10:00 | | | 四川省成都市芸術団 |
| | 山東齊魯団 | | |
| | | 16:00 | 阿波踊り |
| 11:00 | | | 歌・踊り |
| | | | 上海少年少女雑技団 |
| | 中国伝統武術 | 17:00 | |
| 12:00 | 中国の歌と踊り | | |
| | 中国武術 | | 舞踊 |
| | くまもん体操 | | 詩吟(紫岳会) |
| | フルス演奏・歌合唱 | 18:00 | 二胡とフルート演奏 |
| 13:00 | 中国民謡・演歌 | | 閉幕式 |
| | 海南省芸術団 | | |
| | 雲南省民族芸術団 | | |
| 14:00 | | | |
| | 盆踊り河内音頭 | | |